

秩父日記

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5



5496

叙



余性傲不喜与俗士交接平生
所相往來者非慷慨氣士即
之士則必風流雅尚之人未
有可少長与我何山也渡
遠涉周年於少而此好者与

余相尋。收相後。未久而契
交。寡。深。涉。園。為。人。老。實。純
無。遊。冶。習。氣。又。酷。嗜。詩。歌。
而。未。敢。事。藻。飭。書。以。敘。其
素。為。主。性。又。如。游。歷。嘗。自
謂。苟。生。於。此。國。而。不。為。其

國。可。亦。致。於。是。潛。心。於。武。藏
地。理。志。又。數。赴。秋。父。八。王。寺
水。地。探。討。湮。跡。披。索。斷。碣。
將。多。以。補。前。人。之。遺。漏。而。大。所
著作。今。歲。三。月。復。遊。秋。父。舊。每
旬。餘。歸。未。則。出。是。編。而。縣。之。

徵一云。余也。世曰特勞於簿
兵。無暇細更。是編。況於援
筆。此文乎。然。既不可辭。乃
姑敘。所以平生。締交之故。
以還之。

嘉禾癸丑歲臘月望日後於正

嘉禾下之。僦其友人清水正巡

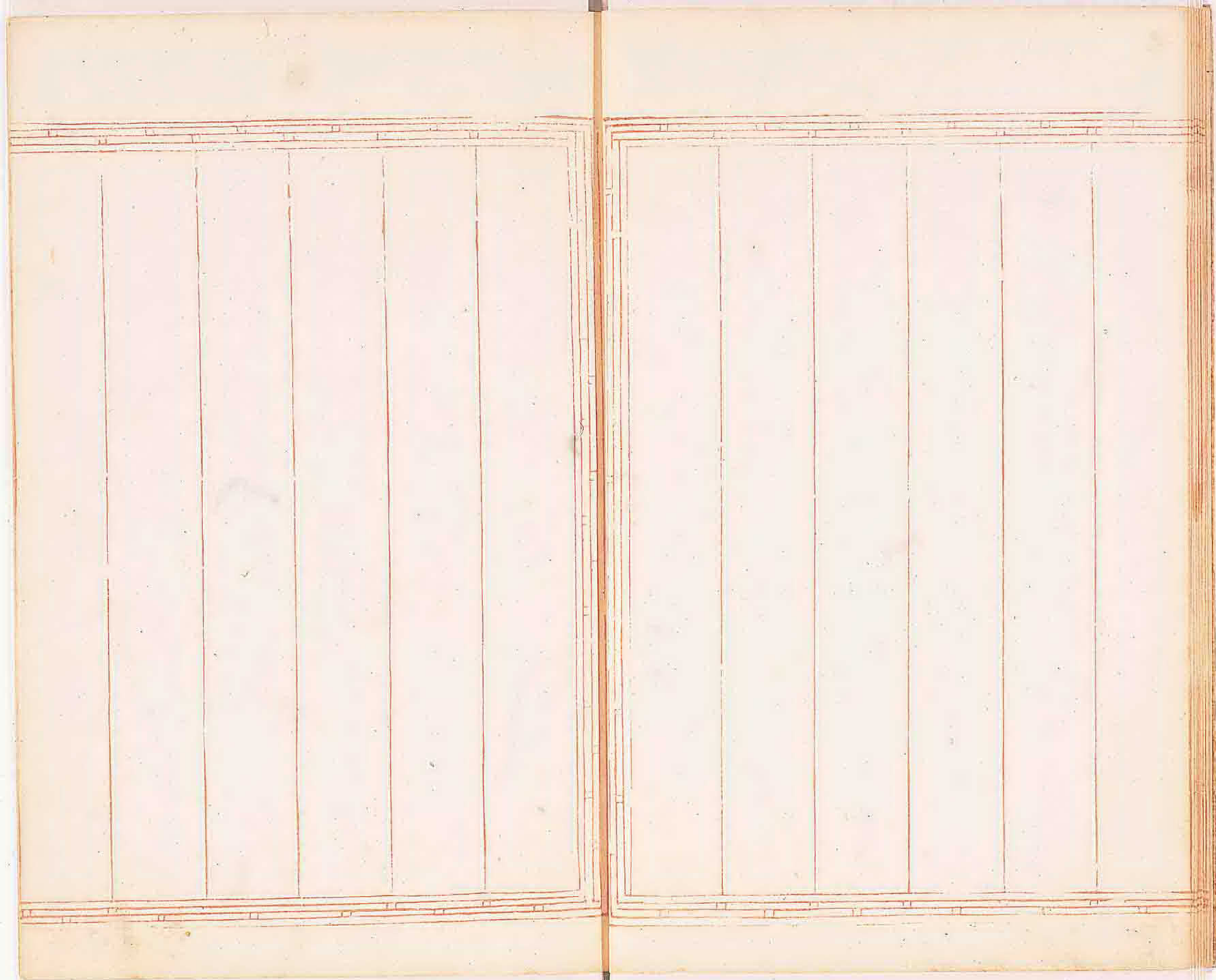


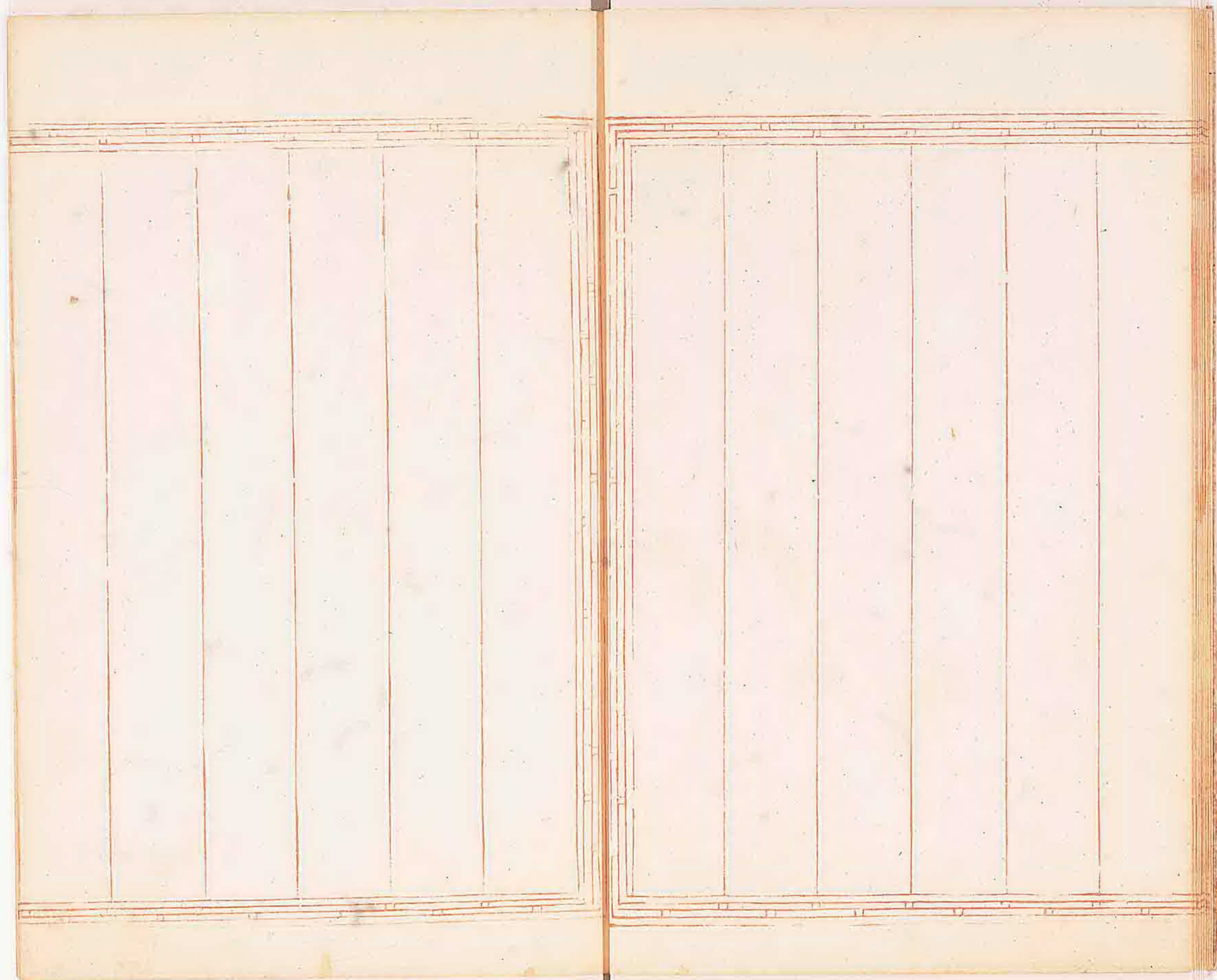
山の病桐霞の疾やかく人光
しをすもすしはるるもてし
ふか根山山火はあそふしん
と出るすやるるもてし
ふか根山山火はあそふしん
と出るすやるるもてし
ふか根山山火はあそふしん
と出るすやるるもてし

此はわふすなつ（も）らそるは
はめらすれんをいふはつと日
計すや母懐かしくてよて、あつく
ふもこいせいに、秩父のふみ
きりきりかきれらるふらに、あふの
ふもするははれ、あつふの日はあ
ふ

あふすふもふふふふふふふ
一ふく（て）ふふふふ、もか（て）ふ
ふふふふふふふふふふふふふ
あふてあふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふ

大なるはらうる第のさしをハ
 うえふもくしやうさえれがとふえ
 うてふしきとせういんふふふ
 せふふふふふふふふふふふ
 ふうくふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふふ





秩父日記目

卷一

弘生村おき

のちのゆき

卷二

おき

のちのゆき

卷三

中倉溪のこけ

のちのゆき

卷四

卯月庭日記

光る丸羅

卷五

九津蔵日記

あまのくさ

おき

麦のう風

惣目平

[illegible]

六事の事
一、
二、
三、
四、
五、
六、

玉のめづりしとて秩父殿のふさふさの枝を
 系しし毛のさしとて秋のひかりのさすの枝を
 しのほのさしとてわさりとてわさりとてわさりとて

かしこくも、
 後、
 おき、
 か、
 な

ちよちのちよちとて、
あまたねえ、
あまたねえ、
あまたねえ、

飛山よ洞の巻、
お持名は是より金
かきりし

清水定之

志げしものやさる振ふのとけふは雲のおきぬ

[illegible]

184

瓶の

松の下蔭

問答

高第街

ふねふ

22

荏原郡
沼部村

沼部村



九子村渡口

浅間

カメノ子山

橘樹形
九子村

南

北

川三

柴橋より舟をこたへて舟の部 凡子の里より舟をこたへ
 より田のうら遠く舟をこたへて舟の部 凡子の里より舟をこたへ
 社をこたへて舟の部 凡子の里より舟をこたへ
 舟をこたへて舟の部 凡子の里より舟をこたへ
 舟をこたへて舟の部 凡子の里より舟をこたへ

梨木の葉の山より舟をこたへて舟の部 凡子の里より舟をこたへ

大塔宮

南

岩川

新井山



[illegible]

かなもつと通せんどのやのふよりへん〜と
 高き所をさまたしこのゆをひねりおもひぬのれき



22

二俣川村古戦場

シカゴ家

鶴力峯
小地名

ムツク

寺

11X5

鑑水村

76



第

錢
川

石部、心、子、安、と、少、山、里、と、八、王、子、の、す、ま、な、な、
 ず、と、大、操、所、と、あ、う、さ、入、く、人、若、さ、れ、あ、ふ、さ、子、と、浅、川、と、
 一、ち、海、と、摘、念、村、と、と、戸、吹、村、と、あ、う、さ、

富嶽

高尾山

子王八

大善寺

此

拜
實

て秋川の玉はよありあては糸を引つきて水より
かなちふかひの山へ横をうけてひたうかきあは
青梅の雲のやうわのうへをうちの松を拜島
そとものつきの山へなれうつてあはうこもあは
あききわきうらつてあはうこもあはうこもあは
つてあはうこもあはうこもあは

いそがしき心なりしをいそがしき心なりし人のまゝのこころ
おのゝこころ



城壩

南



小きうらゝも登りあへりありの家山とよむ名は澤井
 惣清のふりこゝは蘆屋と云へる文人のあやうき山
 城址なりとも船をさし泊るまゝの古月おの
 城垣よりかへりて田中の細路をゆく古寺あり
 圓通寺と云ふなり城址のありていつてゐるや
 きゝるなるをのちのふりてやいふやうに
 名ひあふまのふりていふやうに

秋

田通寺



大徳とみ宿のしるしをのぞきとてあるをたいたに
 ち城のちる人しけむはるねのこゝろをちふたし宿
 けよとてをみ宿とてうのちとて家かへき
 け日もうねえ人ちあるにちとて城址のちるけ
 けとてのちとて風のかしとてちとて秋川おけの
 水の色とてけとてけとてとてけとてけとて
 けとてのちとてけとてけとてけとてけとて
 世間をけけとて秋川の波とてけとて
 けとて



秋川

高月村城堰
月吉池築

竹

秋

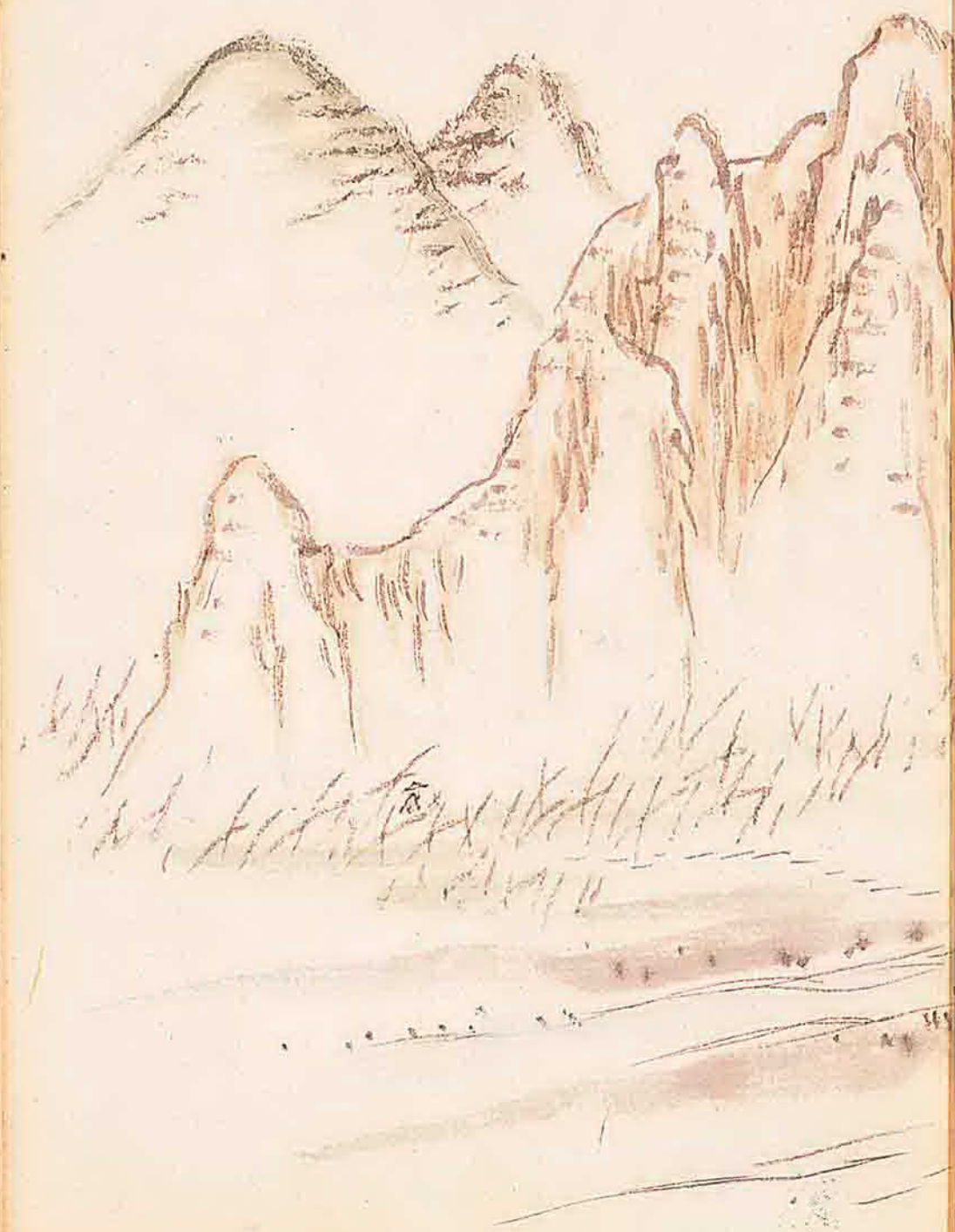
ういふ所をききしをよみたりぬめはるけりやう
けりあふりしをもきやうのへき様をきし
五日よのちをきし日新きしをきしふかひをき
きのよりしをきしをきしけりしをきしつゆを
きしをきしをきしをきしをきしをきしをきし

まゝのこもつるひのちかふもいまだへはま
ひてゐる唇の家をわたり、のねのふゆをまつた
のさ

此書の巻のりこそ一丁に書しあるはたのふかひ
やうお井ももろく御山嶽のふたせうん秋川をこえ

申より久々の参り山のたつたふりも
と山より久々の参り





戶吹村城堰

三芳

一、
 山
 の

御嶽山



大嶽



大久野

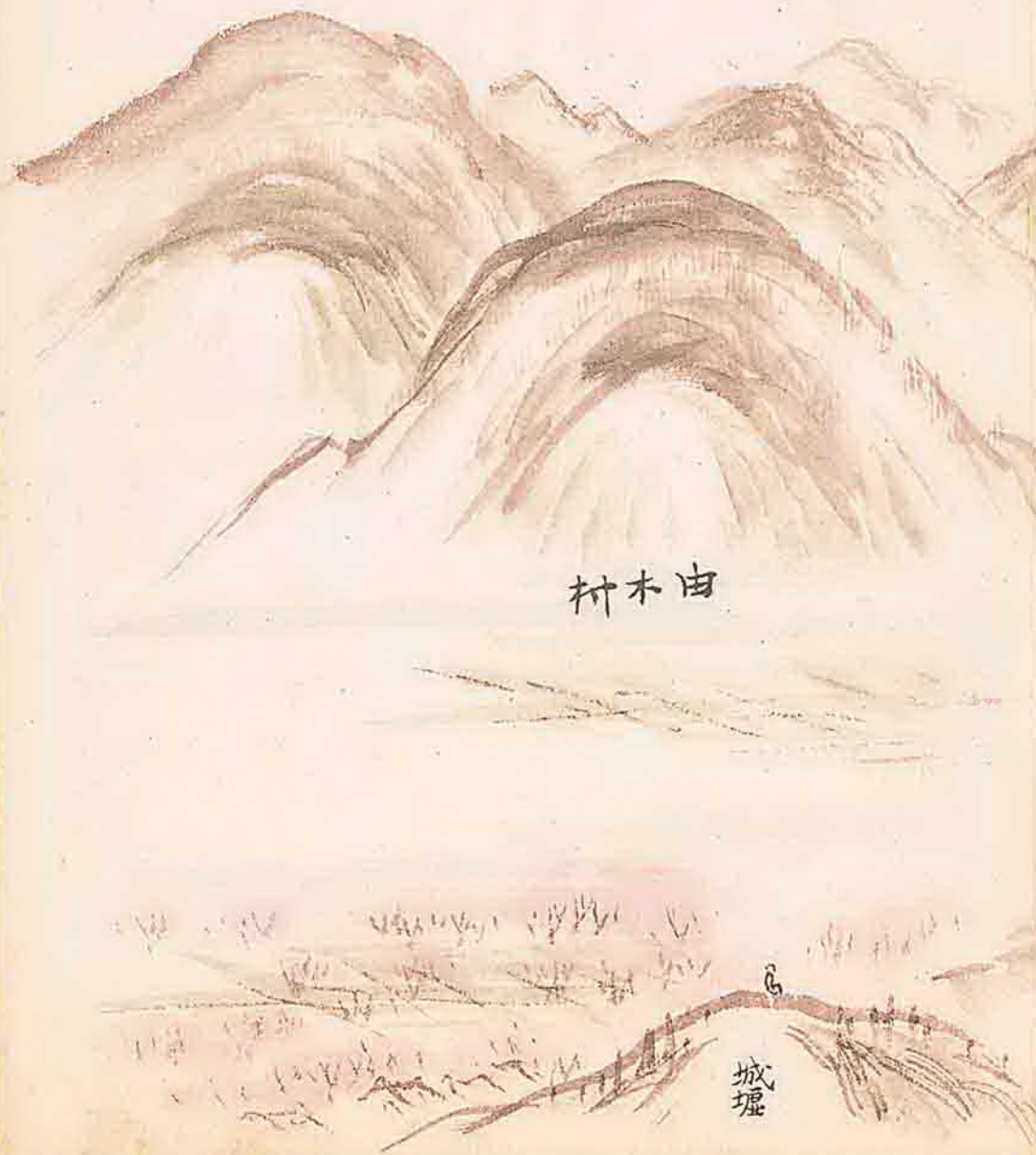
いづれもさういふ世にふたつもの雲の影のこころなほ
 いづれもさういふ世にふたつもの雲の影のこころなほ

お川の下の水もさういふ世にふたつもの雲の影のこころなほ
 お川の下の水もさういふ世にふたつもの雲の影のこころなほ

二俣尾村松林



ミタケ



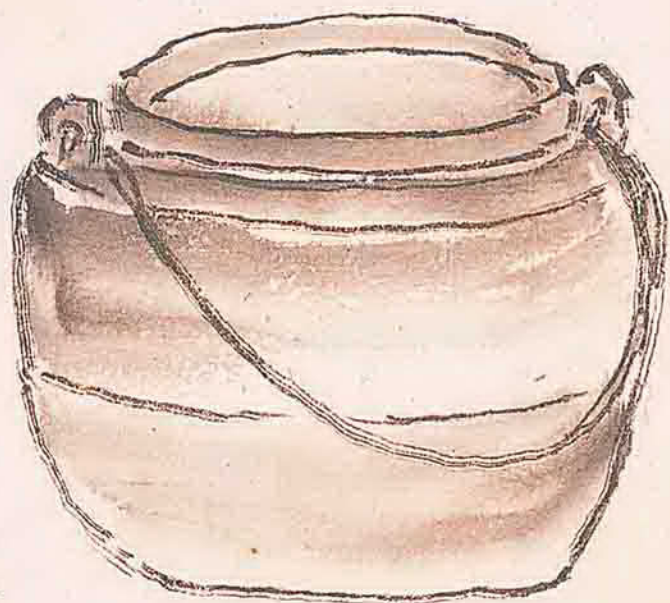
村木由

城堰

[illegible]

二俣尾村 工巳夕 小池 百姓 龜五郎

五寸五分

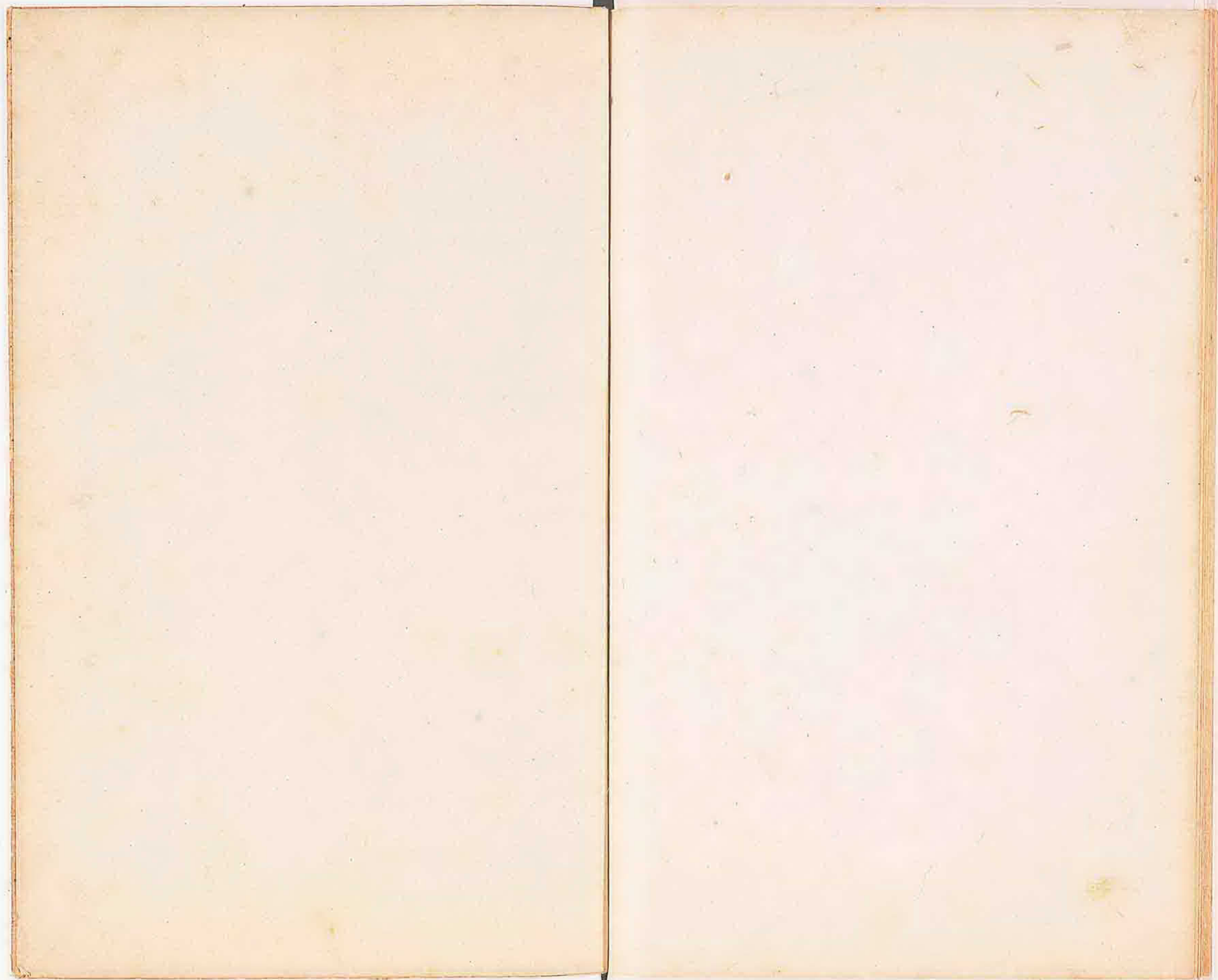


鳥ノ如キモウ有トイヘト
ウスホリテ見えズ

底廿三
口夕之
七寸

高八寸許

ツルハトニテ附シニテ
今常ニ茶ヲニルト云



20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

L8
7
貴

秩父日記

二

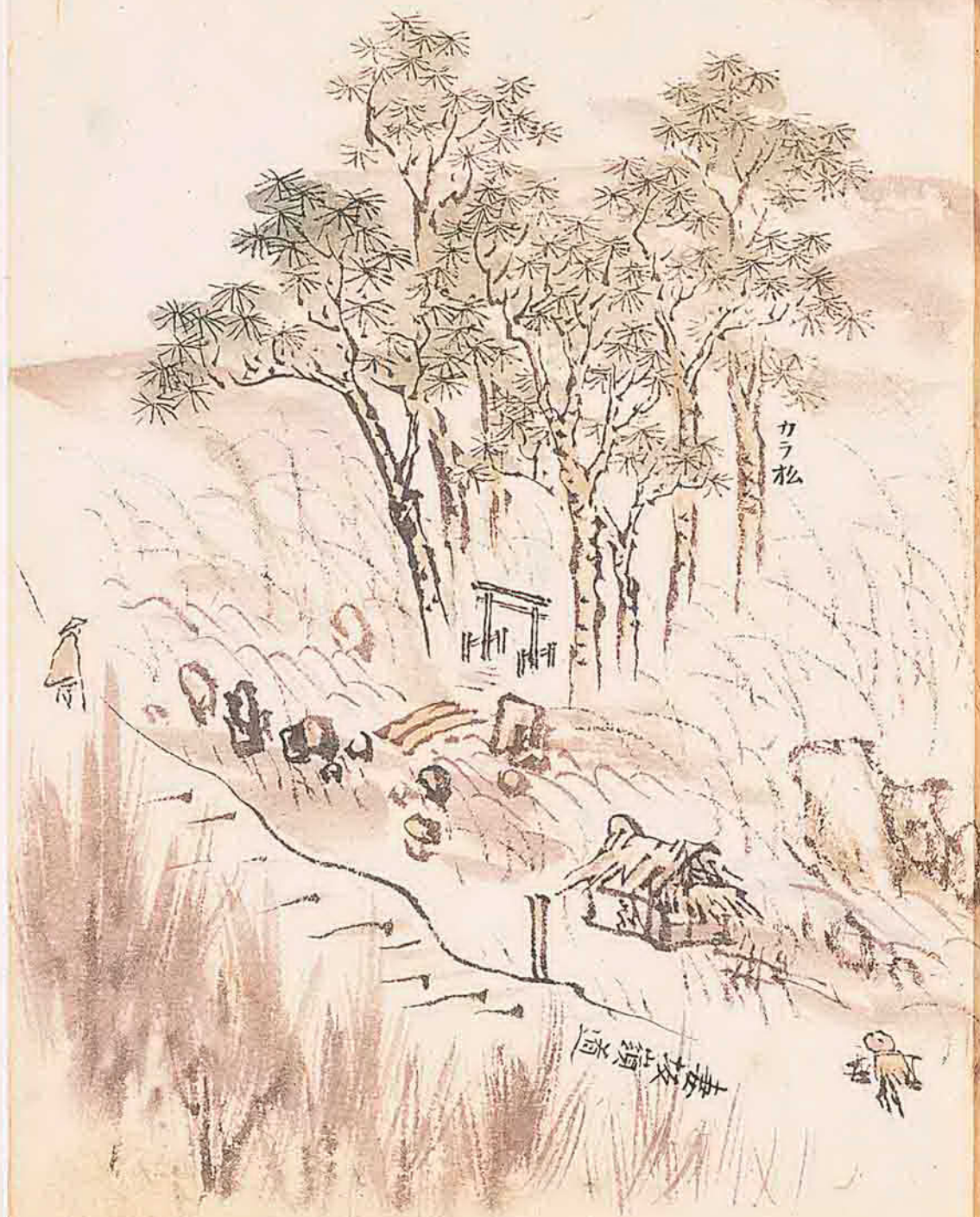


5497

[illegible]

かねてゆかりのきくわたり馬のいづかの道くもく
 殿様こゝま山路こゝろ雲々のふりまき
 山も谷もこゝろ馬のけふいづかき
 一かゆいふいづかき民甲山
 華美のふりあふぬぬの明はるなりお地
 一いづかき

武甲山一鳥居



けふこのうけあはれをのぞきしる大宮の屋中村氏のつる
 わりなき文書とせん。加藤氏の忠節よもあはれ
 こそ申すべし。なんふのあはれとていふにあらうたや
 一とていふにせん。鉢形又い甲府より物いふ。この感
 じしものあはれもあはれとていふにあらうたや
 けふこのうけあはれをのぞきしる大宮の屋中村氏のつる
 わりなき文書とせん。加藤氏の忠節よもあはれ
 こそ申すべし。なんふのあはれとていふにあらうたや
 一とていふにせん。鉢形又い甲府より物いふ。この感
 じしものあはれもあはれとていふにあらうたや

このあはれ

中村久と助墓所 古碣

嘉元二年
 甲辰五月

大宮に里正中村久と助の墓古みえ五通

甲列下山の三百五拾五
 五拾五人此處より
 右の本所へ出立する
 所は行方不明な所
 の地味に似たり



神君の懷中朱印

佐原年々

多分

今日亦六後見與伴
城際_に押詰_る一人
討捕_に祿_を威_に入_る孫_を賜
粉_を月_に走_る廻_る也_にめ
件

二日亦六後見與伴
子_を用_る

井上雅樂物_を入_る

左勅二侯城改割世此親
柳令感悅平仍而悉分
甲勅少石州鄉之內武面委
不獲行哥乃不遠東順知
江書製中皆勉軍般通
忠於之乃此信密之也

下知仍而水作

元季三

山陰下

申三月日

年

三原

三度合越の河其郡之事 各被读合右
来い道の深知の役とて扶助 来い御用と
南書助下いふ縁

正一と云々

し代集

徳文部

三度合越の河其郡之事 各被读合右
来い道の深知の役とて扶助 来い御用と
南書助下いふ縁

正一と云々し代集

徳文部

十三日 舟より入る所の家より丹戸村の古蹟
 ありきりしとていふに古蹟はこれなるをいふ
 といふのこきえきなり

舟より入る所の家より丹戸村の古蹟
 ありきりしとていふに古蹟はこれなるをいふ

両神山

妙見

札三番

サカエホリ

大宮町

池

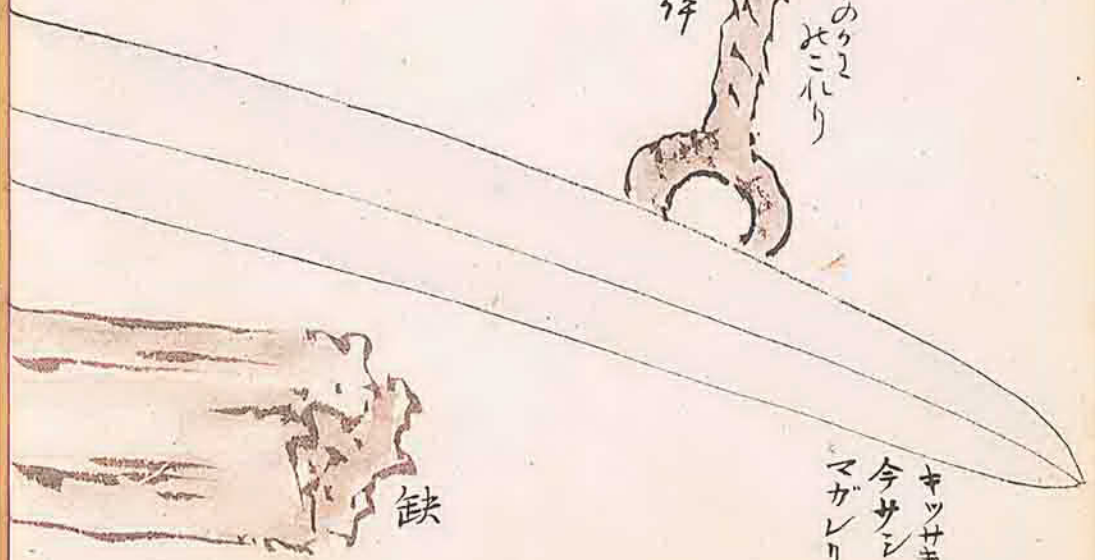
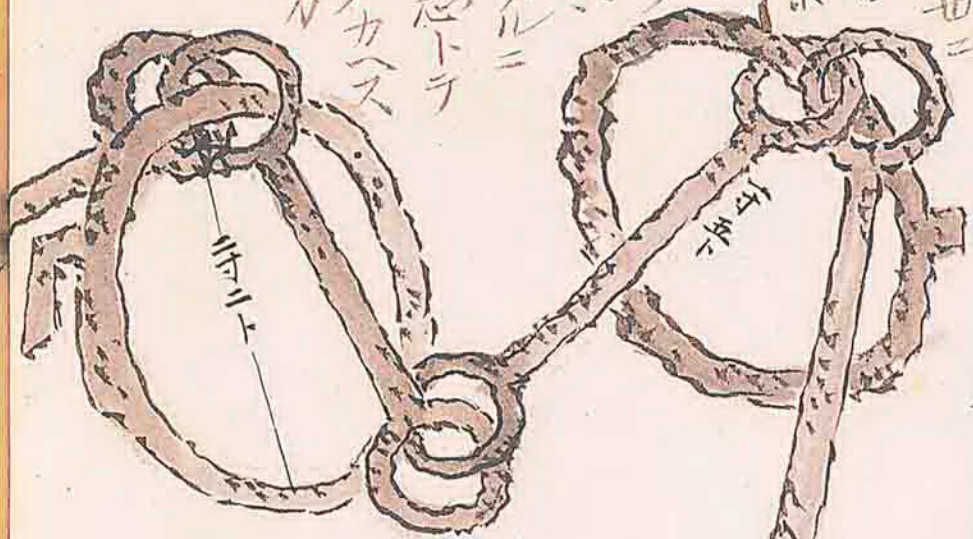
此古刀スナハナト首
 紐刀ニテ後世ニ
 サスガト云曾
 我物語極東
 是時ノ大機
 妓楼ニサスカラ
 ステタルヲ其
 姫ヨリ返シタルニ
 逢テテノ記念トラ
 コソノコソケメカヘス
 ノミコソサスガ
 ナリケレ

馬銜 腐爛あり

繩目
 四寸五分許
 此ニルリ

ヤツサキ
 今サレ
 マカレリ

缺



大宮町久一所藏古器

郡中井戸村の古墳より

おとと云

七首
 モロハ

川

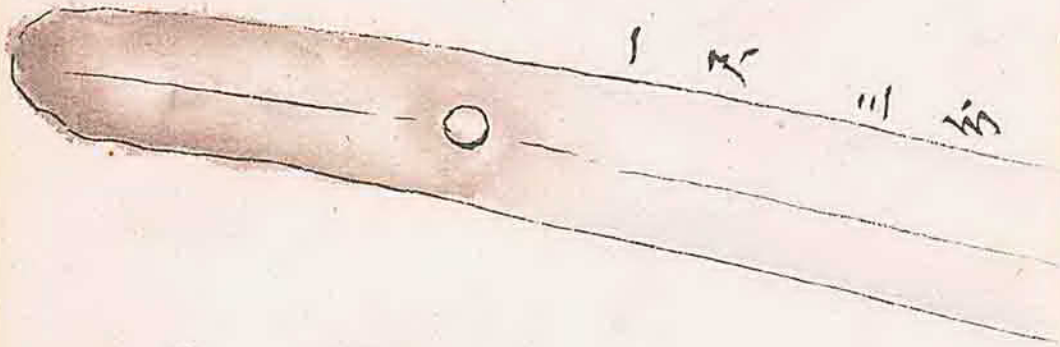
川

テラ
 キト
 フ
 ズ
 寺
 許

石劍

これハ古墳より
 おとと云

ふれと之保氏のやう



十世百々久保氏の屋敷なりとのまふなり

世のたのしみなりとていふに似たりとていふに似たり
妙見社のゆき入なり酒蔵場なりとていふに似たり
人まきなりとていふに似たりとていふに似たり
衣の色なりとていふに似たりとていふに似たり
とていふに似たりとていふに似たりとていふに似たり
るふたのまきなりとていふに似たりとていふに似たり
て月なりとていふに似たりとていふに似たり

夕日の影ふ山田4時陸なりとていふに似たりとていふに似たり
世のたのしみなりとていふに似たりとていふに似たり

十七日はまきなりとていふに似たりとていふに似たり
4時なりとていふに似たりとていふに似たり
物なりとていふに似たりとていふに似たり
物なりとていふに似たりとていふに似たり
とていふに似たりとていふに似たり
十七日はまきなりとていふに似たりとていふに似たり
物なりとていふに似たりとていふに似たり

わきなりとていふに似たりとていふに似たり
新なりとていふに似たりとていふに似たり

率

武甲山

上平

丹生町

北下

川原橋

棚窪

北

スミヤ



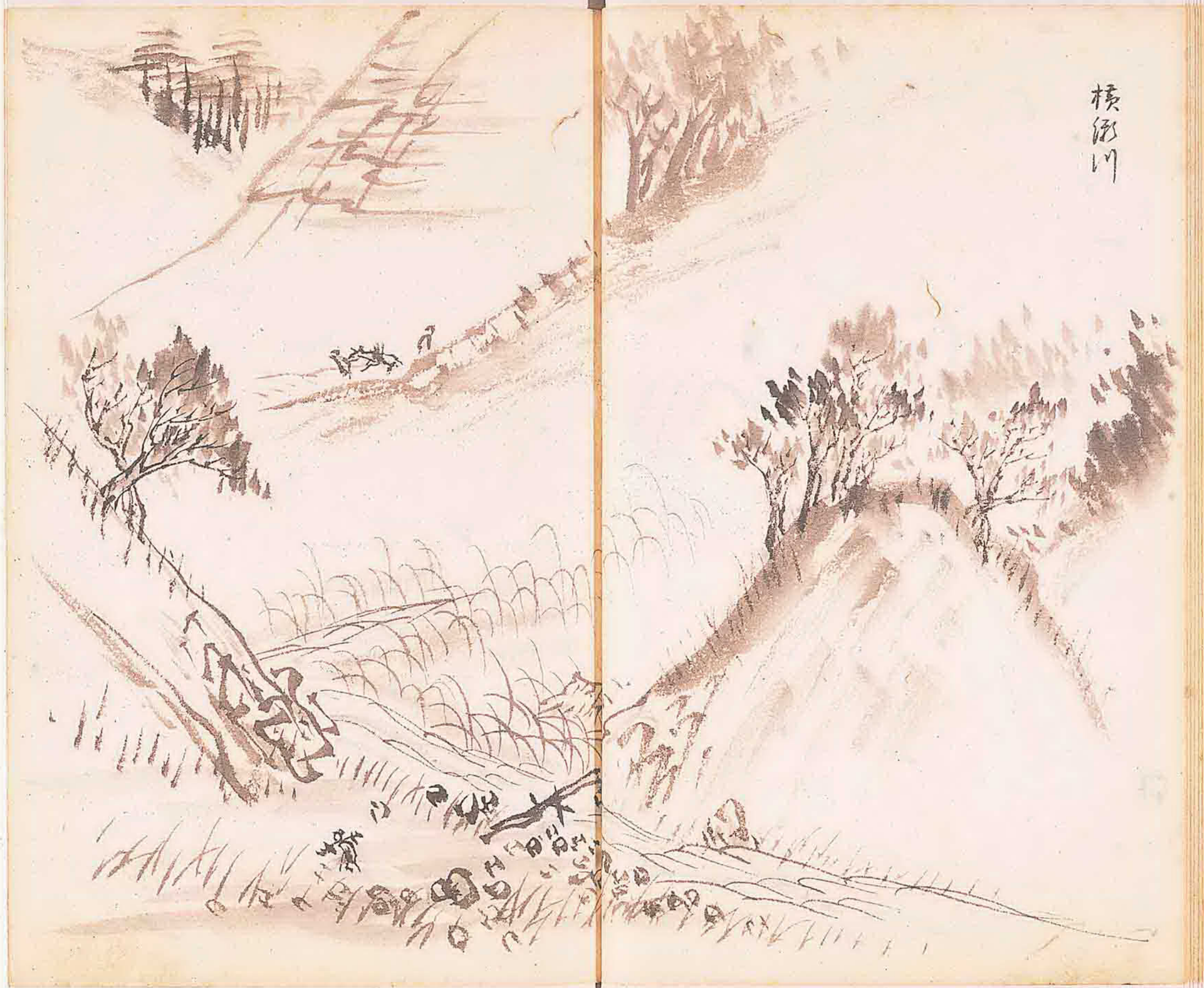
十七日酉をばやうたれよりけり
枋谷村赤穂氏
とて人々も古き文書をえんとしてひくものなり
あつたつていへ申の上の半は跡よりさき
とあちのせいといふのもよむ所の一屋田川の傍に
ありしゆめんとせざるはかりとんけとま
又いつてもそのあらなるをいふことありあつた
の西におこるもど胸あのみじんかゆきをきき
見るにこれこそ一にこころ若上田花落とふ白

故也。ゆゑに、あつちの、お伊勢の上裁

山懐ちるがきゆる昔のまじりたるあはれ
十八日はちやん山の麓の匂ひのふりそふ人ばあふ
きのあもふりふりふりふりふりふりふりふり
ゆる道すののあふふりふりふりふりふりふり

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name, oriented vertically.

横
河
川



鑑死明神恒持大明神を以て社名の申すこと
いなり深きお所の世にきこぬ神も昔けり
山田村に橋を永頼と云ふ歌人ありまゝりてたいふに
うゝあゝとてありてなかりけり神の靈を
あふめりていなりとてのこゆるを神のいづ
けりたふやとていなりとて

まゝのいなりとていなりとて
いと永頼もかゝりていなりとて
はりて観音のまゝのいなりとて
商人のいなりとていなりとて

いなりとていなりとて

秋風よとていなりとて
いと永頼もかゝりていなりとて
あけつとていなりとて
の印とていなりとて

あけつとていなりとて

栢谷村里正神為龍形四藏古文之九通

何ともし返りて豊五寸八余幅一尺五寸

いなり

と友たふ合戦二校
之名は忠義の傳先
日南より帰郷の時
三津石と標合し
走廻る毎夜秘傳
妙は仍お三津石武指

世々地より世々状
如件

十月十日庚辰
日

神后左衛門

今交為使漢
雞不江成
何和牛
下起行
狀少

九月日乙亥
狀

狀

受順

右五山城書之件

天正十六年
五月
出

能方山城書之

炭燒亦祿役
再買津新木口
何之免行以多
北角以中數者
有之今石令上
名也何也件

虎印

成康

十二月十六日

之

廣勝中

解
謝友平

知府

六

三

馬田

二

役

三

唐

王

上

右

位

水

元

七

虎印

新

錦役之事

石田千太郎

日或戸

大吏

片林

一一一一

右三津世書之地

從清本城の成役

相變り相違ひ中

之云々知所也

うり買ふ公方錦

に控一也の故然る

所を是也旨う候

おるし少少候

永禄七年

六月十八日

甲子

虎印

米坂の公方

下地可事

三書百入 唐本白 思海新集

い

右先年一書信

砌一初一書一書如所

相商地無一書為伎

地書書名也山水件

永祿九年丙寅

鹿印

六月

三書百入

新加東門

知也

空而幸久
三子之內
石田分瑞

山

右元年校者位阿分

一而一多古之師也

付之於地幸之於人

亦知角中他取佳福

右有之見合極補

可多校者之仙也

元永三年申

七月廿六日

虎印

神農先生

三三三三

如过

三三三三

增金

上三三三三

右為林本工物

役者之件付

以年々亦

以能之と納

吉也何如件

申
七
廿
六

虎印



神農氏

日くくくふと山の平穂とは道よりつるをみ
 くらりと山登りく横原川をわたりし
 けりありありゆき人いづかきとふ年次つ
 なる名のと大力のまけふはふれもきき
 うまゆふくくく大越氏よりいふ

河原ありて大川のほとりには君のありふりあり

妻ふる秋也^{あき}の横河^{よこがわ}ふふて

十九日午方上の平は所り人別帳とてあるを言ふ

ふりー三日はよくふゆのそとをみて日だるふ
二十日ある年の時はるるさうさうはるる

二十一日、わが方のあつたはなをみえへる會と
おのれおしふうにあらんかゝるやうのありさま
をかきつけひてみる。日付すぬまちよなまらわ
ぶねんとそよよこゆるりしてまたたりわめて
早ーそこへくさても空際きむゆづめふくらみどふ
らん老人とある一りねいといとおもひぬけよう
字のたよりはずやともかく罪咎する人きくとはいへ
かゝるものなるは山崎公成なりとなおもちめゆき金三

玄十七於甲列小管
表敵一人討獲
之乃之玉感吃
流丁去知也
少中

月廿二

思

橫濱村里正製成所藏古本云

橫濱之印氣之山成之事

合里松書台古松亭之若定納

竹山先生印
 山色有方

太宗崇文皇帝

王右軍之書

二病爲一也

きりぎりす
かきつばた

為每部立書

日心學

阿拉麻堂の之

皇太后

三
以

同方

二十三日あがりつゝの事いふ大連氏
をいふの事いふ事いふ事いふ事いふ事
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

横濱にいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

横濱にいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

び一日をくして松のほりよりうきうきなり
 くら木たもたをあらうとてゆきとてゆきと
 の年よりなりぬありきとて松のほりより
 こそ松のほりよりなりぬありきとて松の

[illegible]

くらやうにありて——と云ふまゝなる
 きやうおとふとて武甲山のく持せしふゆゑに
 年一ふりて念佛終ひをもけんといふ法師ある
 人とも修徳候くありつゝまゝく人のまかゆまへ
 はやと上り平のあつゝまゝぬらまゝい光生あるといふ
 ころ寺お供をもくしていせいにありくおとせといふとい
 つ道中よりいふ供もなまやまふ流くおとる

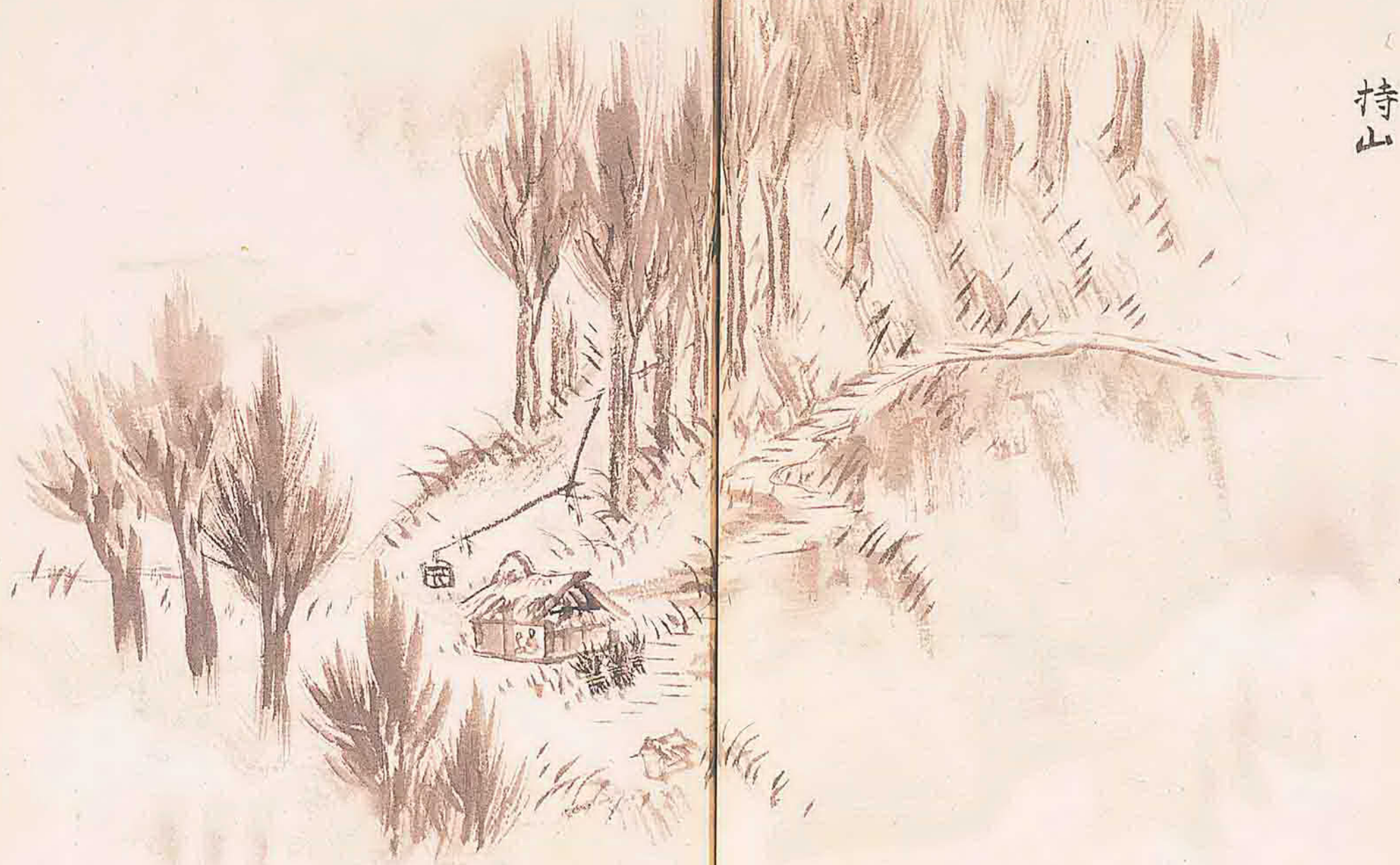
[illegible]

[illegible]

山嶺の系深き〜石の〜あふ〜神楽の〜



持山



持山寺場石

三六
密火

石佛

がーりやゆつふやふやと大越氏よりせしめて
前田村一瀬氏と傳へりとは古き文書をききしとあり
あつてはゆつふやふやと大越氏よりせしめて
ゆつふやと大越氏よりせしめて
ふやふや

二十八日ゆつふやふやと大越氏よりせしめて
ゆつふやと大越氏よりせしめて
ゆつふやと大越氏よりせしめて
ゆつふやと大越氏よりせしめて
ゆつふやと大越氏よりせしめて

等のゆつふやふやと大越氏よりせしめて

二十九日ゆつふやふやと大越氏よりせしめて
ゆつふやと大越氏よりせしめて
ゆつふやと大越氏よりせしめて
ゆつふやと大越氏よりせしめて
ゆつふやと大越氏よりせしめて
ゆつふやと大越氏よりせしめて
ゆつふやと大越氏よりせしめて
ゆつふやと大越氏よりせしめて
ゆつふやと大越氏よりせしめて
ゆつふやと大越氏よりせしめて

ゆつふやふやと大越氏よりせしめて

高篠山

松江ヨリ

キマ

ひて一酒氏に書りて事文書とていふなり
氏政より韓形の氏邦へおこしりせしことなり
ひて事文書とていふなり

十方一札に十に申一割被久一留書
て成付る自是也中一一人氣未上下
あまの程をみるなり韓形所書院事之成に
一留書なるなり成云城之書丸なるなりなり
あまの日と書付てみるなり一妙書院事
明後日と云書付てみるなり一妙書院事
元道系と云書付てみるなり一妙書院事
中付と云書付てみるなり一妙書院事
信の藤三騎近我一海上と云書付てみるなり
今更不入中付と云書付てみるなり一妙書院事
又書付てみるなり一妙書院事
中付と云書付てみるなり一妙書院事
信の藤三騎近我一海上と云書付てみるなり
一留書なるなり一留書なるなり一留書なるなり
一留書なるなり一留書なるなり一留書なるなり
一留書なるなり一留書なるなり一留書なるなり

十方一札

一留書

安房守

この家いふは藤田氏より山の一岡書助より一岩津
 形より入て手書しとあり名いふれよりつらんより
 解んとしは榛澤部宗居村のわらうる正龍寺と
 いふる禪杖と氏邦より移りし什物ありと者
 道のよりありはらねあへとせしこひきしおくは
 又中前田とよめは模明神より式部の山神
 おとよりそのゆつもの家よりせしこひきしおくは
 のかよりおとくえよりと社とせしおくは石叡と
 こひきしおくは石の性質がとくしとくしとあり
 よの物とせしと

模神社 神體

総長三尺許





棕神社

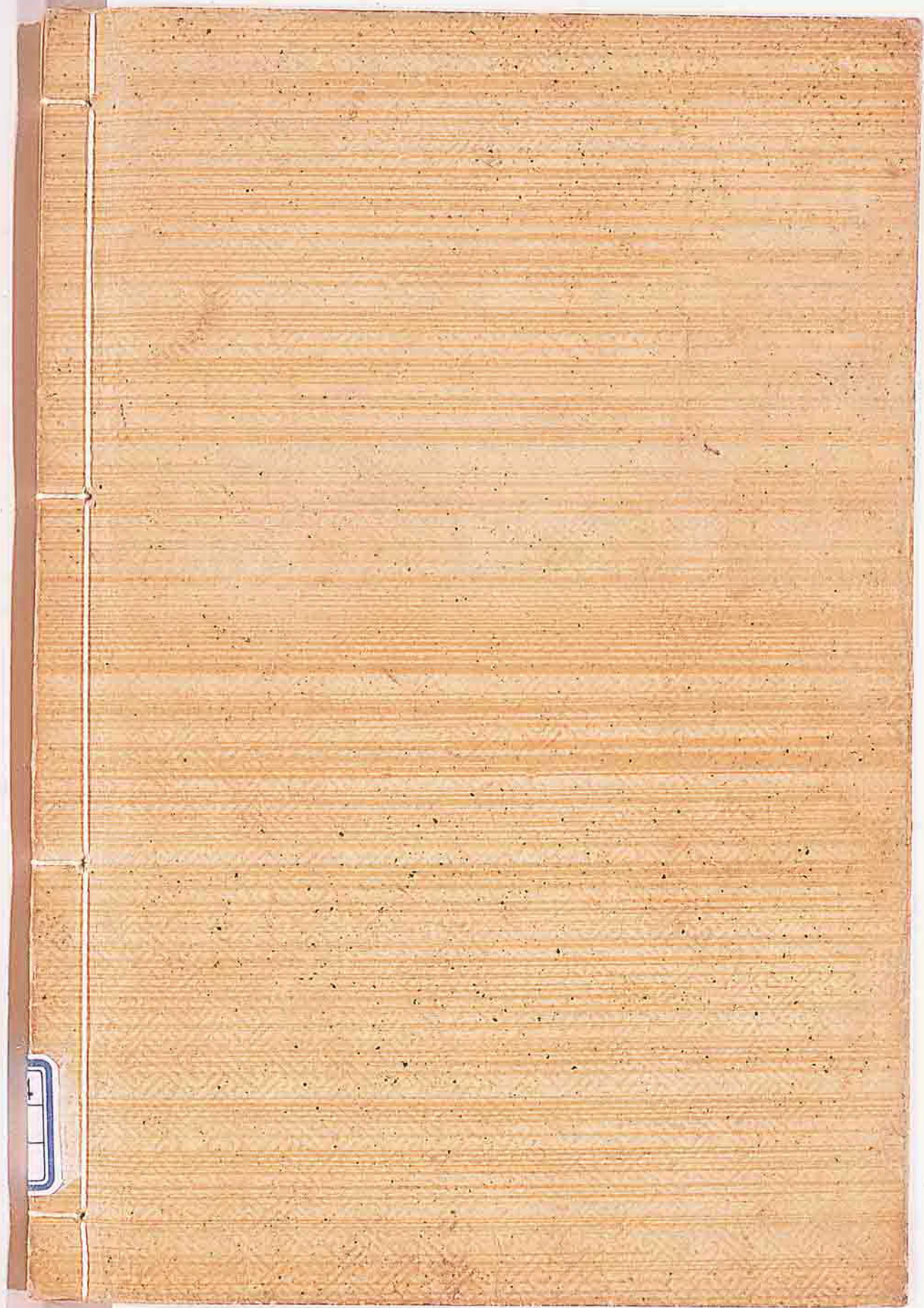
官、アツカリ
農夫、元四郎

[illegible]

ひまのむくし海老松をくまひて



それより和歌のちよとよふふむらゐるゑんふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ



秩父日記

三





心もけり夢のやにともけりなまじりて
 いかにもふかき夢にぞありてまじりて
 多かりともけりむすのたひにまじり
 けりあけりともけりなまじりて
 けりなまじりてなまじりて

花の色二條へゆく日訪ふ衣夏おきてゐるおらん
 上平あともいふなもちきくそく島飯といふあな
 といふうへへと贅川村の人をうたふの中
 津川あきかあつてはあつてあつてあつてあつて
 とくねあつてあつてあつてあつてあつてあつて

田白は中津川より上りて大谷の谷に里ありて
 その一里に里人のゆゑに〜おつゝのき 嶺
 なき間を〜つゝのき〜おつゝのき 嶺
 黒竹のやうに〜大谷のやうに〜おつゝのき 嶺
 本と云ふ所は〜人より〜おつゝのき 嶺
 けり〜住と云ふ〜小麻生所より〜おつゝのき 嶺
 けり〜おつゝのき 嶺のやうに〜おつゝのき 嶺
 けり〜おつゝのき 嶺のやうに〜おつゝのき 嶺
 けり〜おつゝのき 嶺のやうに〜おつゝのき 嶺

ねかひと云ふ〜谷のやうに〜おつゝのき 嶺
 ねかひと云ふ〜谷のやうに〜おつゝのき 嶺





いふかききりしちみ清水むすむかしのあなを
とけあふれしもののはなニ花も一はふまうあ
しねまり町しとむむおしとくもね 友まねり
ふの盾ねきききりしちみ清水むすむかしのあなを
けりけしめあししとくもね 友まねり
ねきききりしちみ清水むすむかしのあなを

中津川岩の峰を越えてより雪の花と云ふ
わづらひの紫くまふと咲けり雪
為神山の西のつきけり雪のひかり
わづらひの紫くまふと咲けり雪

こにも鉛をいれろとて板屋もたふし今
わづつありふやくも住すなう是よりいふ
あゝと波をけとてあつてゐるや磐梯のま
まねえまゐる木橋のたのしみきふにちひく
こゝろすきゆれ

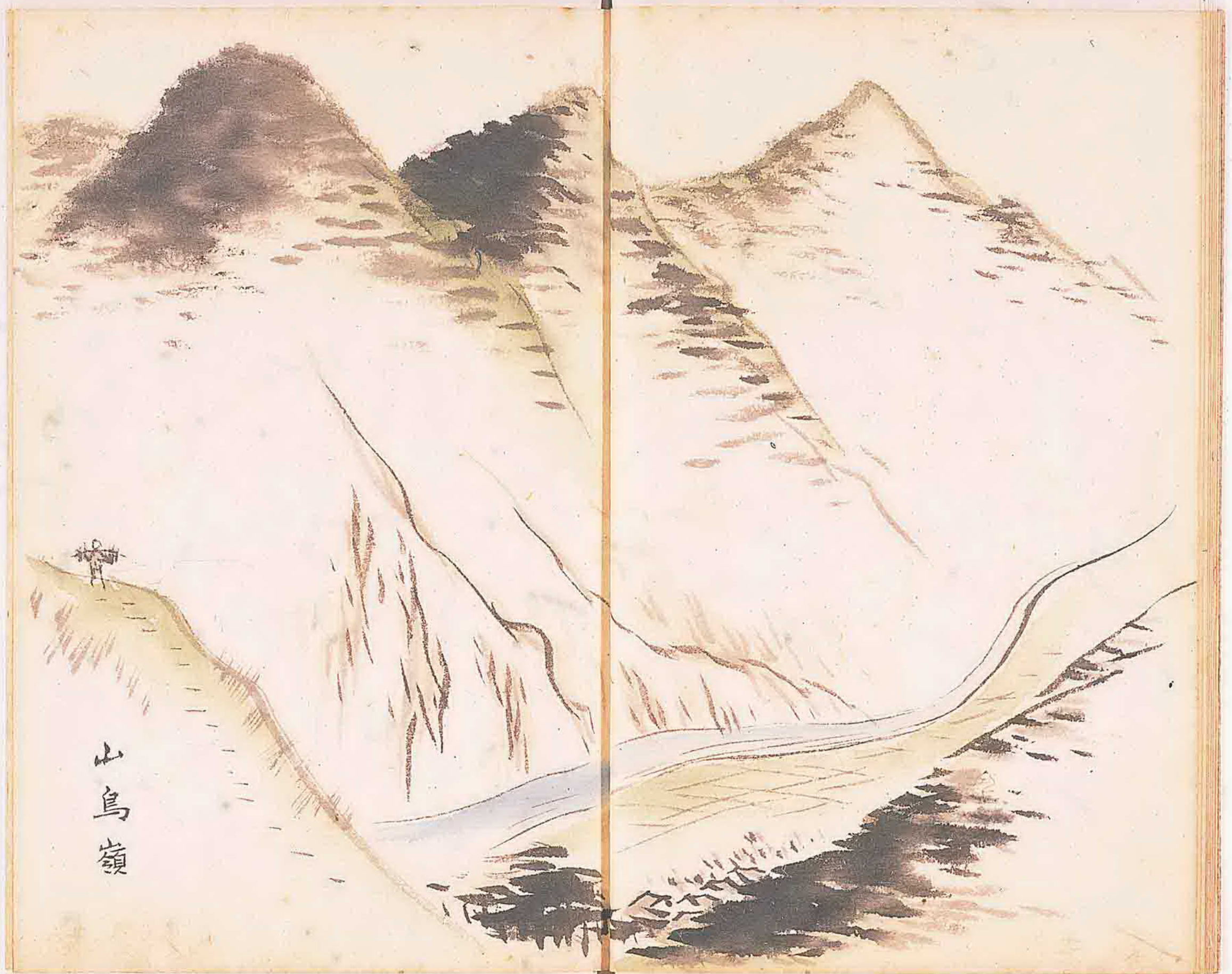
年々心算のつゝの落しあへるはも哀なり
 はなれおとせ人のものはさうたてた炭
 竈のけやりのそとけのけやねびくち者の方
 よりいよりの谷水がふぶにうつてうんぬ
 るものつきはひきあがりてかろやうと海

たのしき道を行く



カリカケ澤入口





山鳥嶺

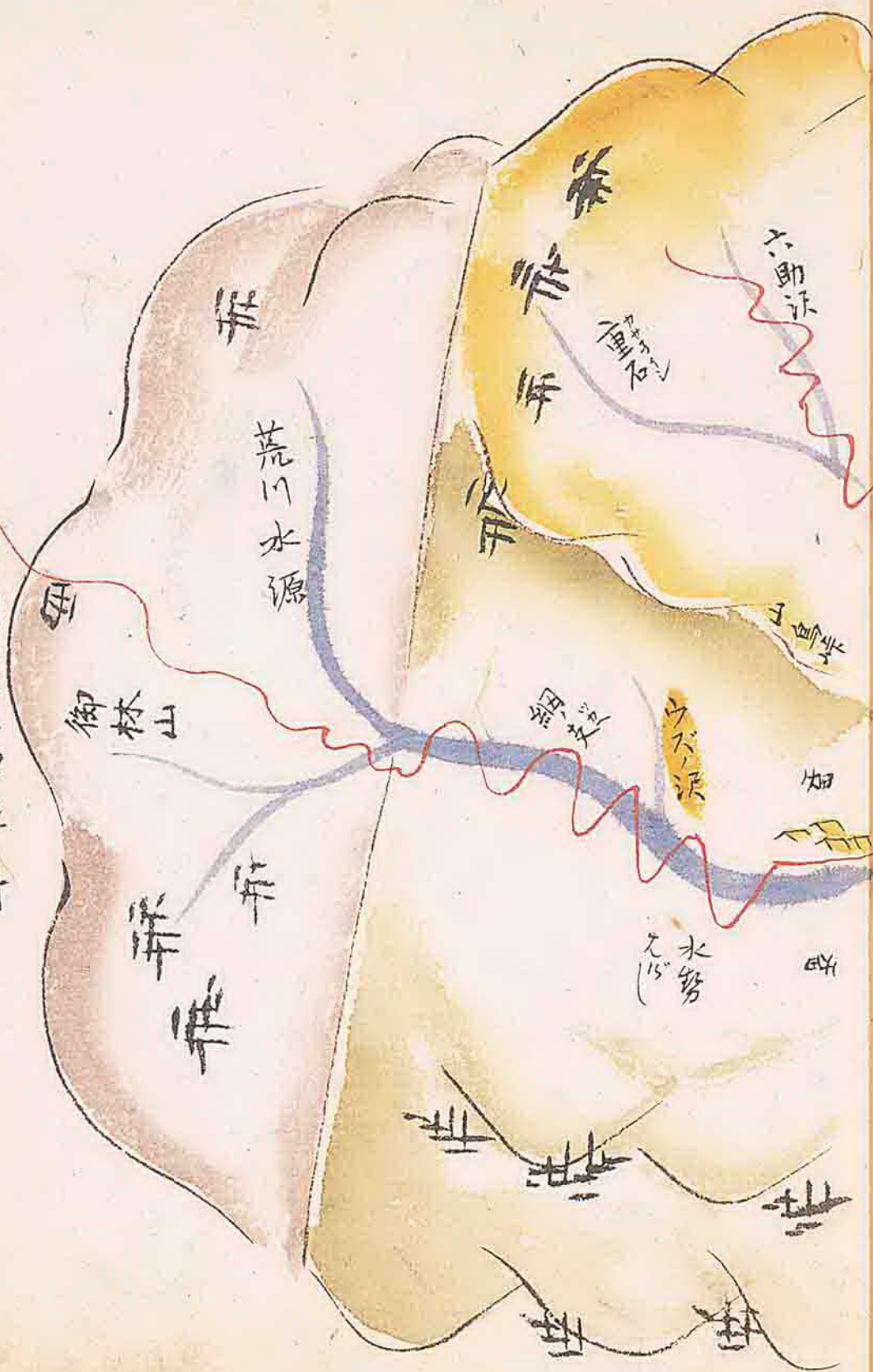
道産のりけは平らな所といふ所の出たところ
 中津川村のりけは平らな所といふ所の出たところ
 まづが石もあつた。いふ所は荒川の上
 うへは山と川とでうへは川と山とで
 あつた。屏風山とていふ所は西と志保
 のりけは久保田郡棒山といふ所は
 甘楽郡妙楽寺といふ所は南と北のりけ
 田舎といふ所は東と西のりけは
 大田村といふ所は北と南のりけは

[illegible]

中津川村繪圖

黄 鉛カセキ場
官林 崩黄
百姓山カセキ場

信州佐久郡梓山村



村田野郎中



十乃海通、内林と未刻より尚麻
糸素と被る、一足利善祐、
信成と名乗、一小僧、
梅也、他好仕、
後、一休、
梅也、他好仕、
後、一休、

壬午、
下月、

二月廿

氏直

安房守

山枕坡之——古梅之木
 城海通之押指不韻之金也
 後之——如之厥後之人之
 江田相也——事之之故之
 古碧故之——由之海之

山月寺

氏直

右三山里竹名 齊藤隼輔藏

後於走廻を一度に

接物也仍如件

永禄十二年己

七月十日氏親印

神友集の五十八

まゝいりてかゝるくみりてのちかゝるおしる處に
秋形の鑑る北條氏より入るともさ甲子月の
月松に於繪るふりたる家ゆきつて人より秋形に
かゝるおしるおしり付入るともさ甲子月の
何のちかゝるに家ゆきつておしるおしるおしる
らきりその事とるおしるのちかゝるおしるおしる
おしるおしるおしるおしるおしるおしるおしる

同明年黒竹くらの里の家おきりひきつり

白石山

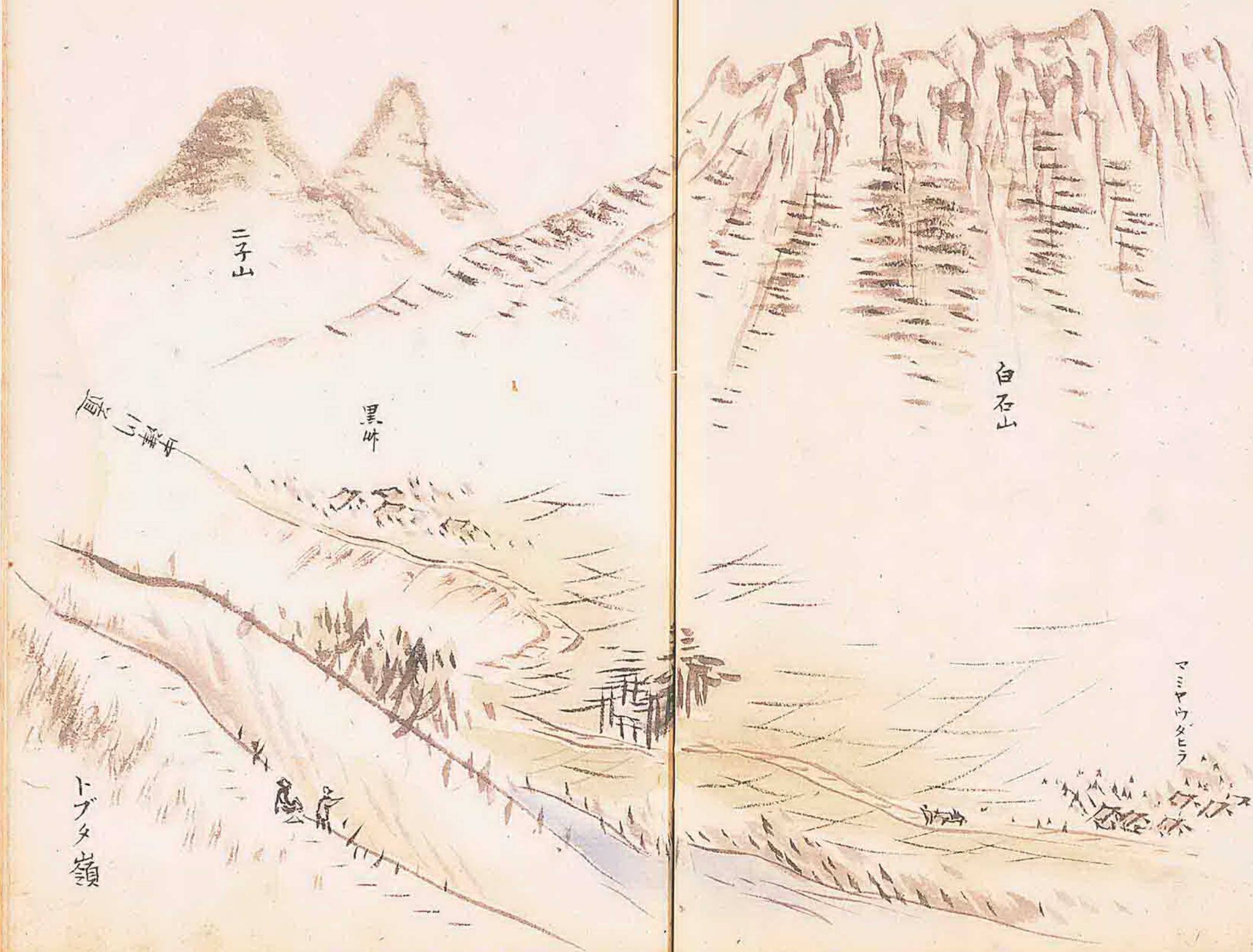
マミヤウタヒラ

二子山

黒峠

飯三峠

トブタ嶺



かくて唐川のつどなり多治良氏止修らるる
ふたにりてかの文書ねんあるふりひき
やりて死せりてふ人建武二年七月と書るに
とへめつとこふいとのと相模次郎時次
若水の國よりおきて鎌倉言ふとありと
ふとて歌舞樂川とて歌陣之がひかり
殊に老人のゆゑきしむるをぬるるあり
なりかき川とてむりてふりてふりてふり

變乃仕合被之
咸悅以何境
去之重拙賜之
也仍如

永祿十二年

十

氏部

多比良將監

今度歌部系川合戰
敵陳及之度驅散
順陳部人之御拔
部之部之重之為賞
下有河法也
仍之威狀也

丹生宮部

義一馬

天氣軍令

建武二年

七月十日

物股平六郎



於上列其將海盜敵
 多比良豐后寺討捕之
 事初陳之由武切
 之由依之由為生之實
 敵先令海盜何後
 今此良寺之由為生之實

了為其書七回也

永祿十年

正月九日

氏康 印

指股平年

L 294-7

昭和37.6.14 受入

納入先：原田屋吉右衛門（中村不二夫）



秩父日記





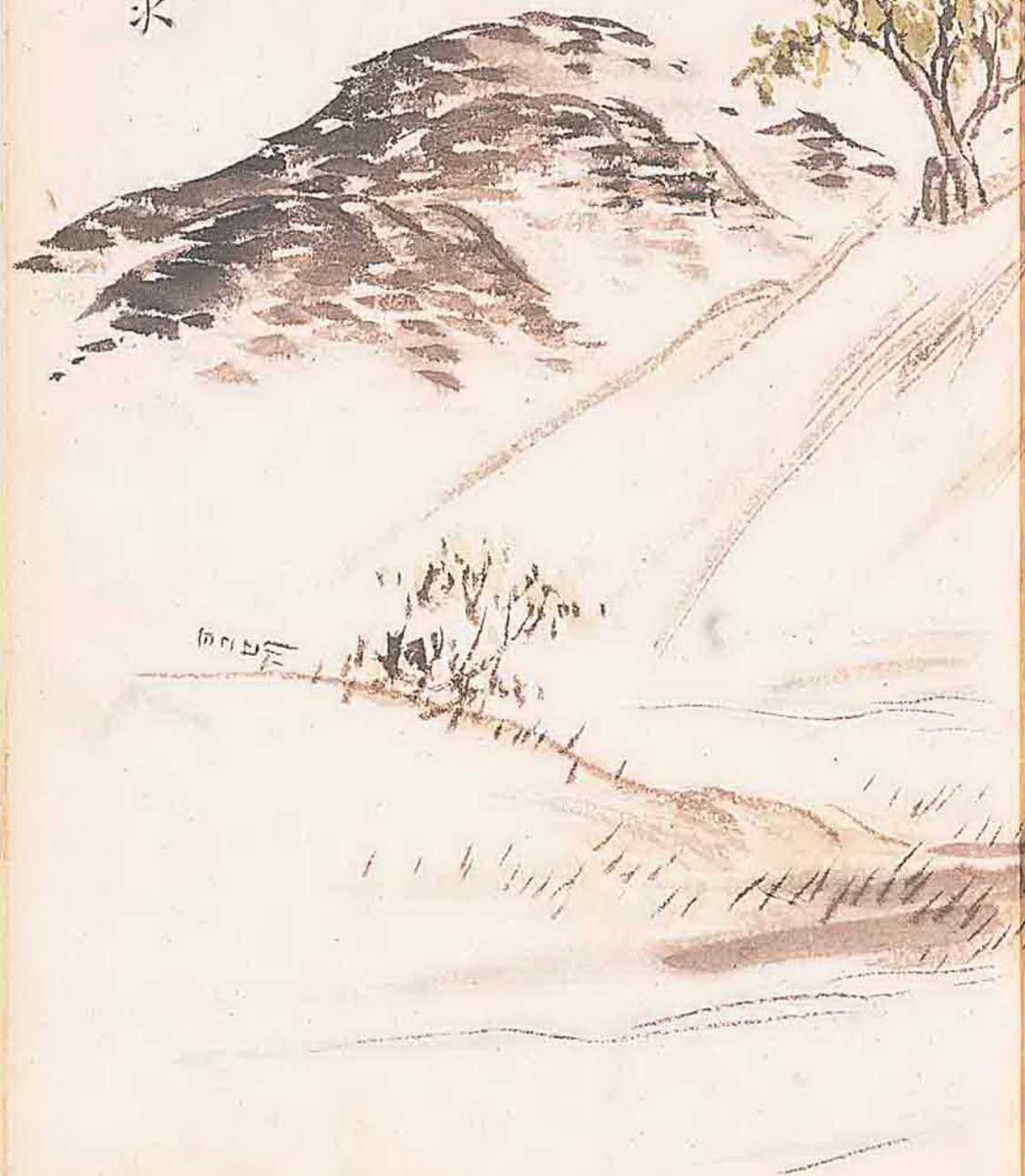
5499

八日とては佛生會とて粟のいひよもたのこもりおぼ
てゝゝゝとてや次山毎々藤の花もさう卯の空を
うぐめおぼゝゝゝかゝゝゝお田こりの寺ふめ
灌佛をのまれおふゝゝゝわのきおふゝゝゝゝゝ
きゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

我惜心、何ぞも、こゝろあつた、つゝ、
あつた、つゝ、
あつた、つゝ、

ふしとていふことなり

清水



清水のほとりには
石の橋ありて
人々の往来あり
と云ふ事なり

十一日は色々と風あり横濱川のつぎ横瀬とつぎ
4代へ勝へ書きし家へ。好くおとあふしつ
またおひきするまゝ大坂の志士にきかせし
わうふ丸を揃へておとあふしつ。つぎ
おとあふしつ。

横瀧



下黒谷村 沓汰社ニシテ一ノハル川
 水の色は青く
 下つ流より上へは松林なり
 下つ流より上へは松林なり

水の香りとてめいひらふ後の一ノハル川

下つ流より上へは松林なり

下黒谷村



荒川

たりの谷をたれいの川つらせりて

溪川の水のききいなるのつらなる

ほろりたる

水車



清水

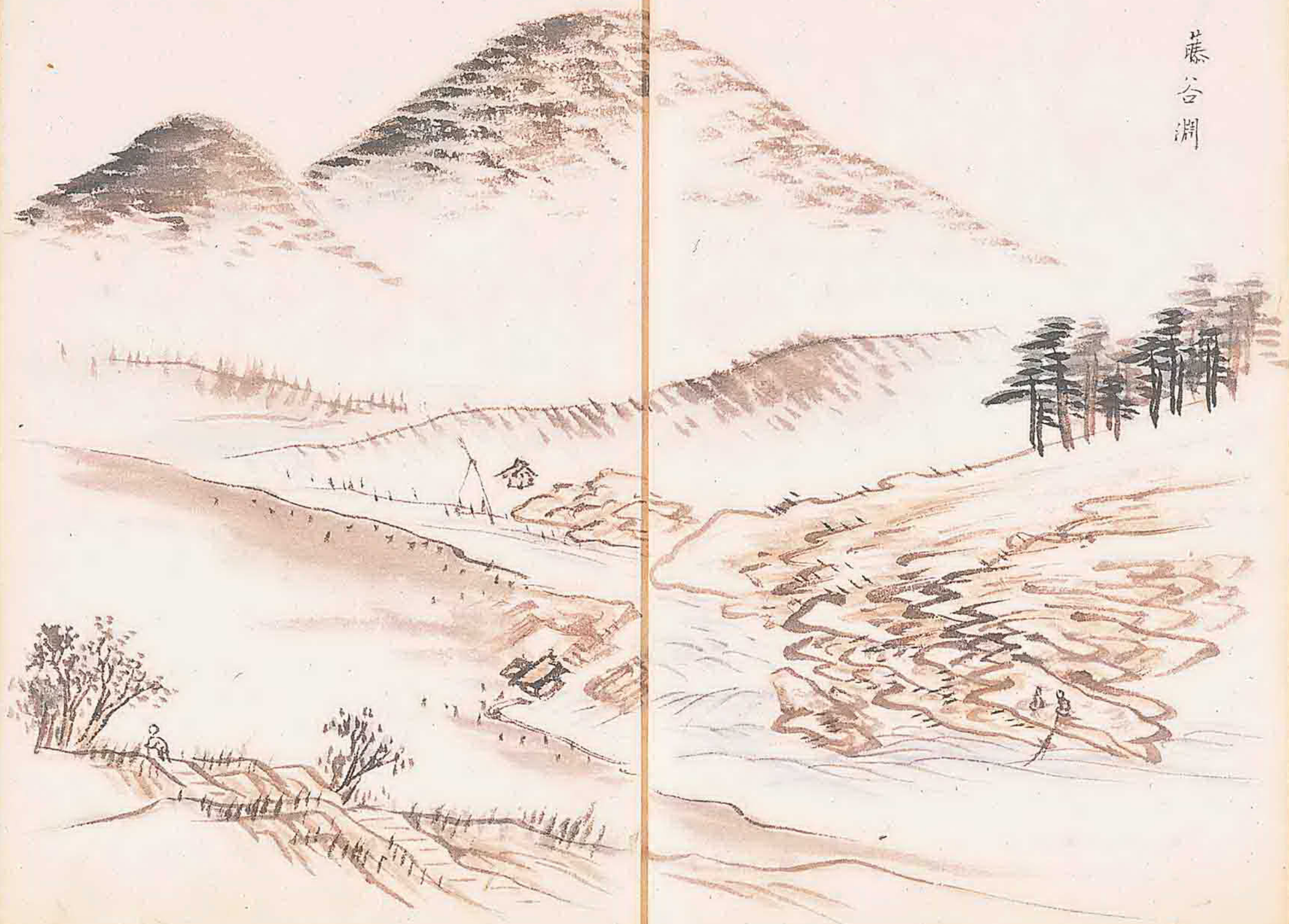


十二日ともふも荒川のりり井戸村のりり
 といふけいりのはなさうーさうーといふ
 4月2日いんがのりり井戸村のりり
 といふけいりのはなさうーさうーといふ
 といふけいりのはなさうーさうーといふ



皆野

藤谷淵



[illegible]

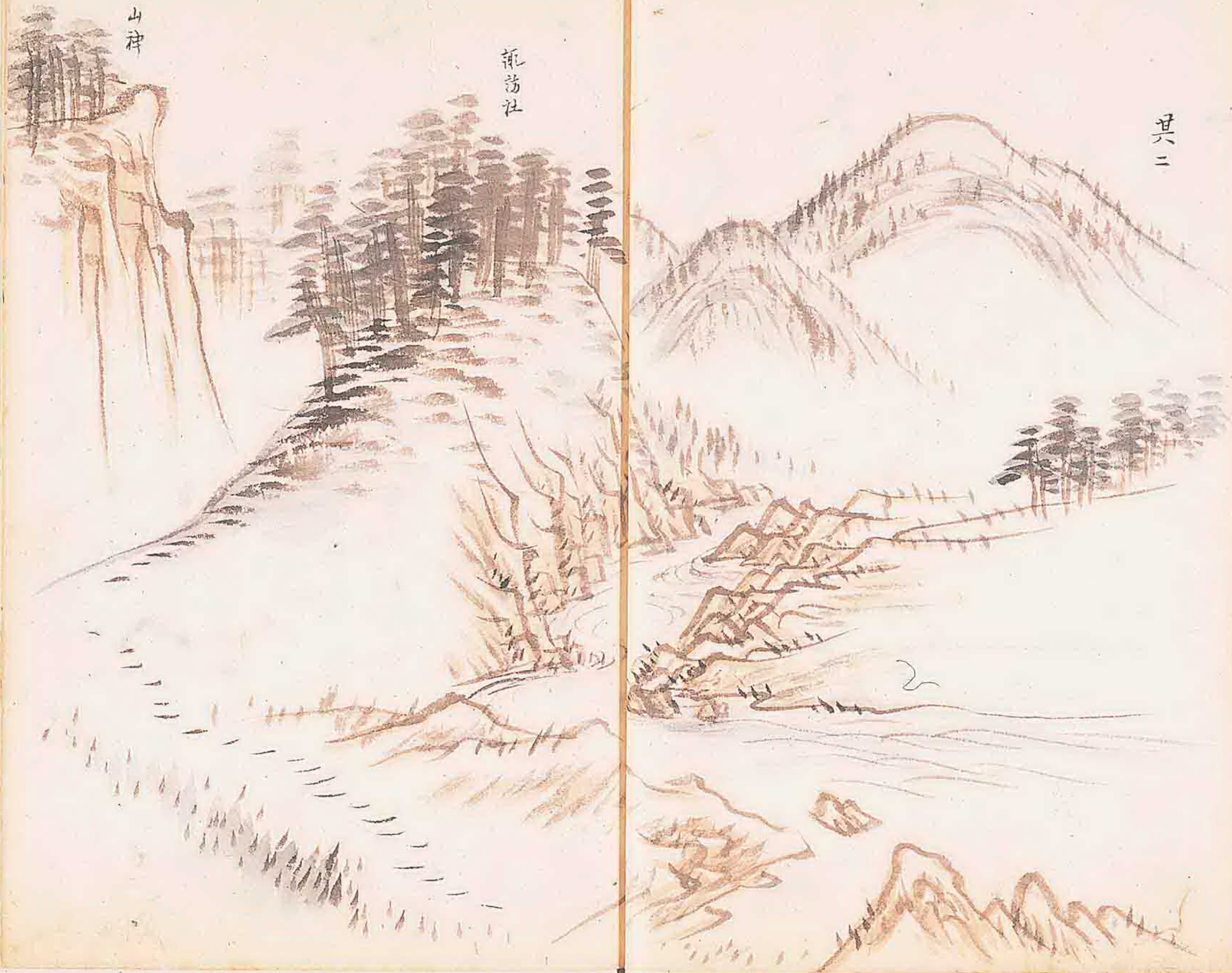
井戸村



山神

龍防社

其二



龍川



龍川のわきわきと水は
 谷水のわきわきと水は
 と水はわきわきと水は
 と水はわきわきと水は

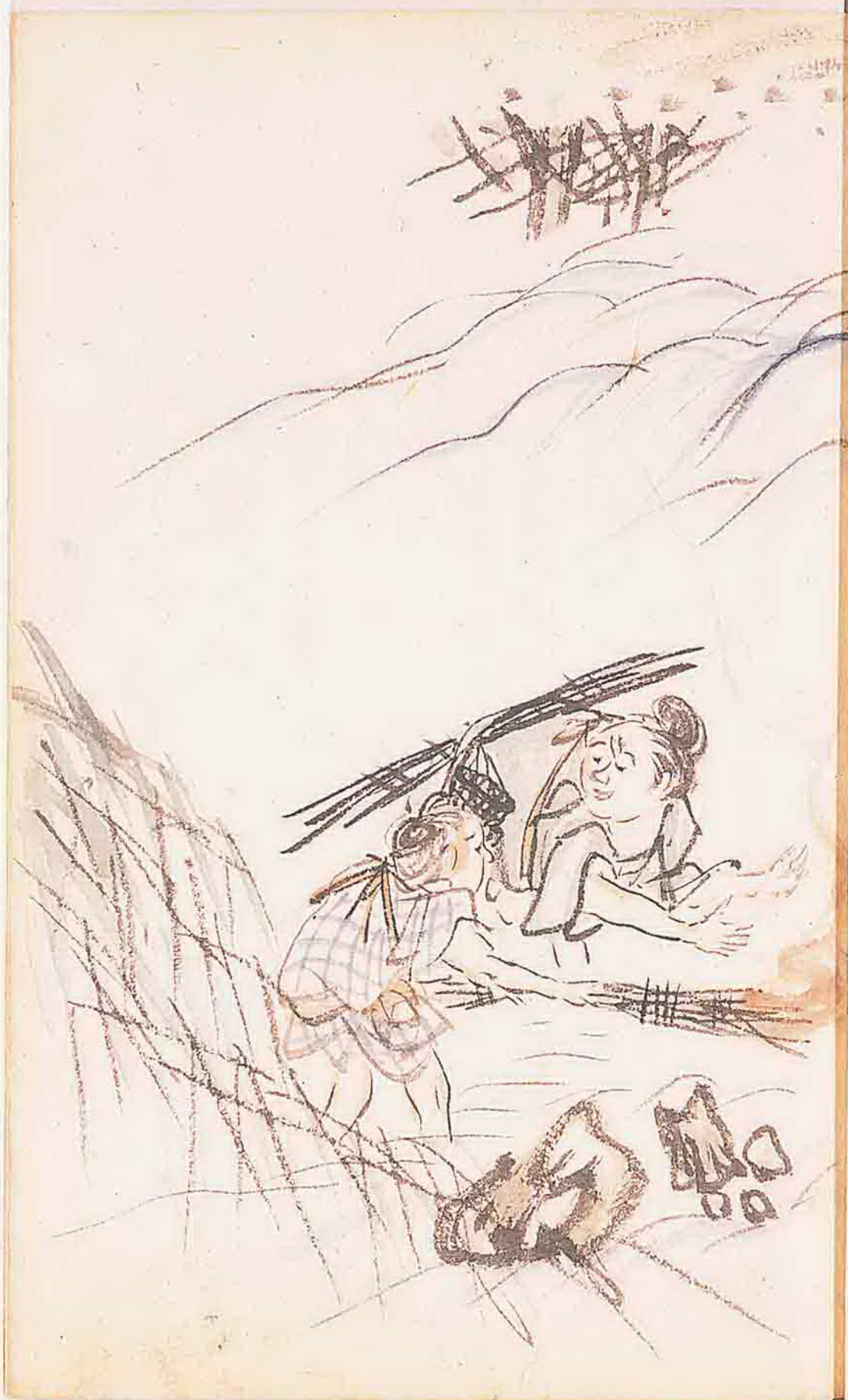


武甲山



アツイ

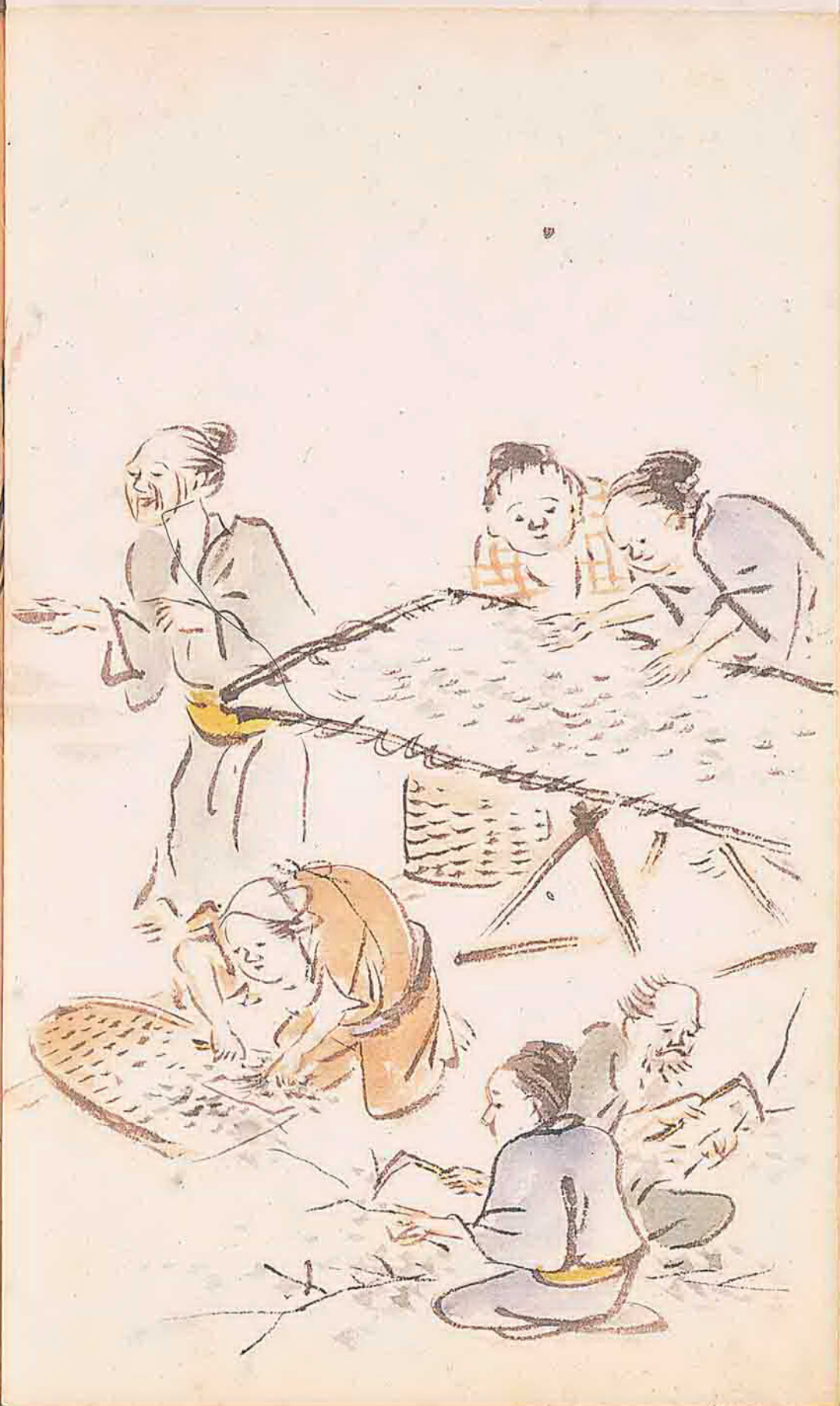




ヒブリー之圖

月十夜

大御神のいふまゝに岩本寺といふ僧を
ひいて大般念經法華經をいふたの傍
にハ十四もくうかゝりてなわくは
まかいたるのうゝか、毎うと禪機とありけり夜と
して經卷の中より淨福徳の本もなりけり
多妙へり花つゝふと一のせふはくんきとふ
くらふかり出はわいぞ押かひるふきとふ
けくゝらうとふけふもひふとふとふとふ
はわのれいふとふとふとふとふとふとふ

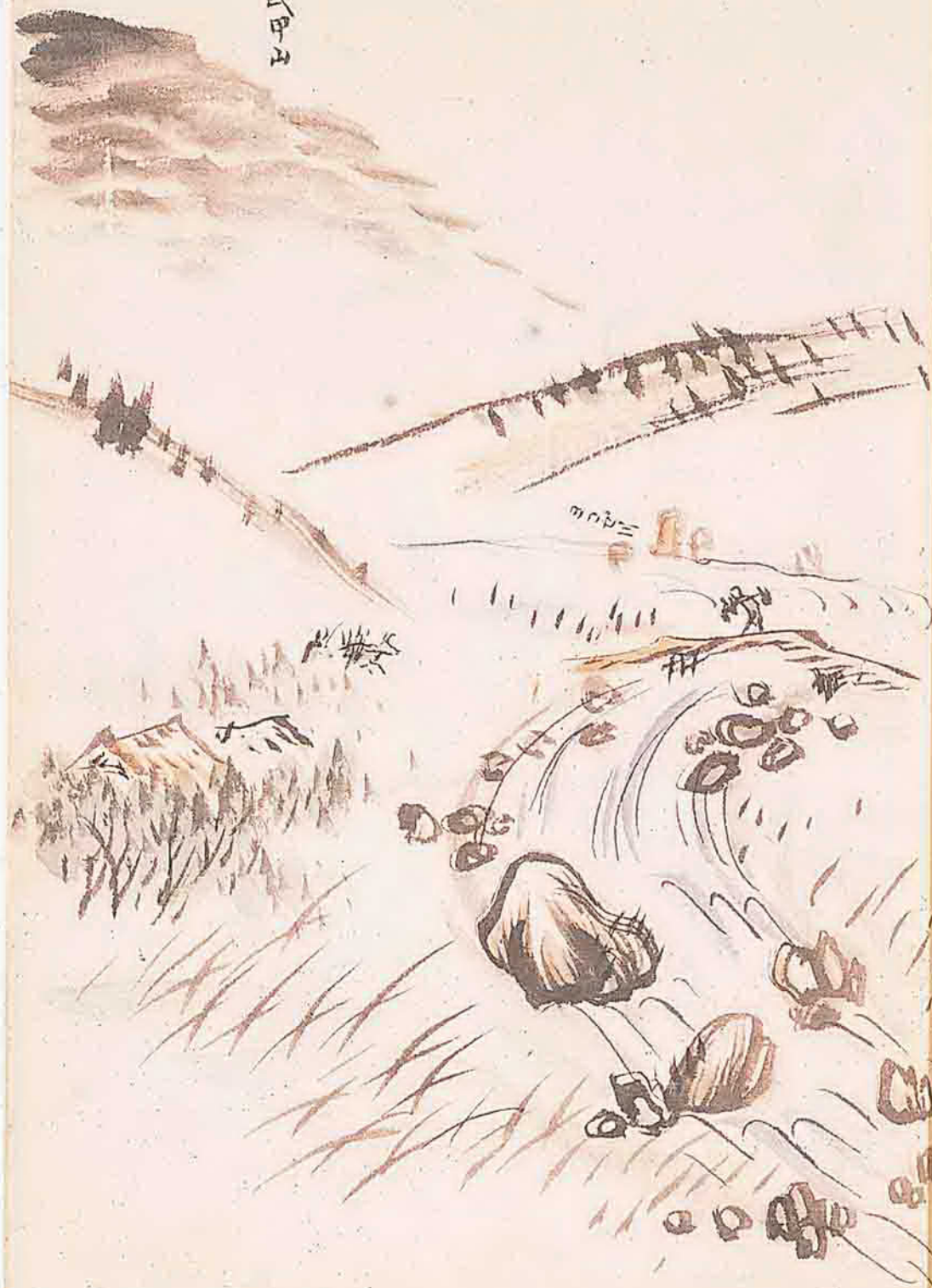


大いなるあめをうける
 十八日はあめがふりつづき
 雨あらし

中務



山



十九日はきき書のふりかへてふりかへてのまじりかきり
 下川がいつつふりかへて上田野村がや
 とふりかへて文書ふりかへてのまじりかきり
 の所ふりかへて首ふりかへてふりかへてのまじりかきり
 いふりかへてふりかへてふりかへてふりかへて

二十日はきき書のふりかへてふりかへてのまじりかきり
 中野村がいつつふりかへて上田野村がや
 とふりかへて文書ふりかへてのまじりかきり
 の所ふりかへて首ふりかへてふりかへてのまじりかきり
 いふりかへてふりかへてふりかへてふりかへて

ふりかへてふりかへてふりかへてふりかへて
 ふりかへてふりかへてふりかへてふりかへて

ふりかへて



石市
山

紫
山

三
山
徑

紫
山

受
石

門

えりやゆふ平原のふりよ長き板橋のやうなる
 さなふらふ浦の川のほとりこゝに木々ありて
 いすはつくりなるやうなるもの波のうねり
 うねりありて

三



平澤

くらに思ふ上田様よりのみ家へんのうはあ
 名栗と云ふ名はありといふは………ねえ
 のう書つてあるやうに………きこひを
 ちやうど………いふ………うしろの……
 ちやうど………平次と云ふ………やうな
 の下は………いふ………うしろの……
 結ひ………あ………いふ……
 け………いふ………三峰………観
 音………いふ………いふ……
 ……いふ………いふ………いふ……

つゝ元々ちふ井の事をしていふはめり何す
てお世うそのいふけなきはなれとたへていふ
らめきなりおのきもいふり、さういふはきなり
まはしうてきてたの路でもたのきなりけりたら
てたすのうあふと門坂といふ所を過し秋も
てむそめりけりきなりいふいふあはれなり
いふいふめりていふいふいふきなりたのき
いふいふのいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふ

武甲山



明
叔

[illegible]

白澤邦言シラアサ
洞中之圖



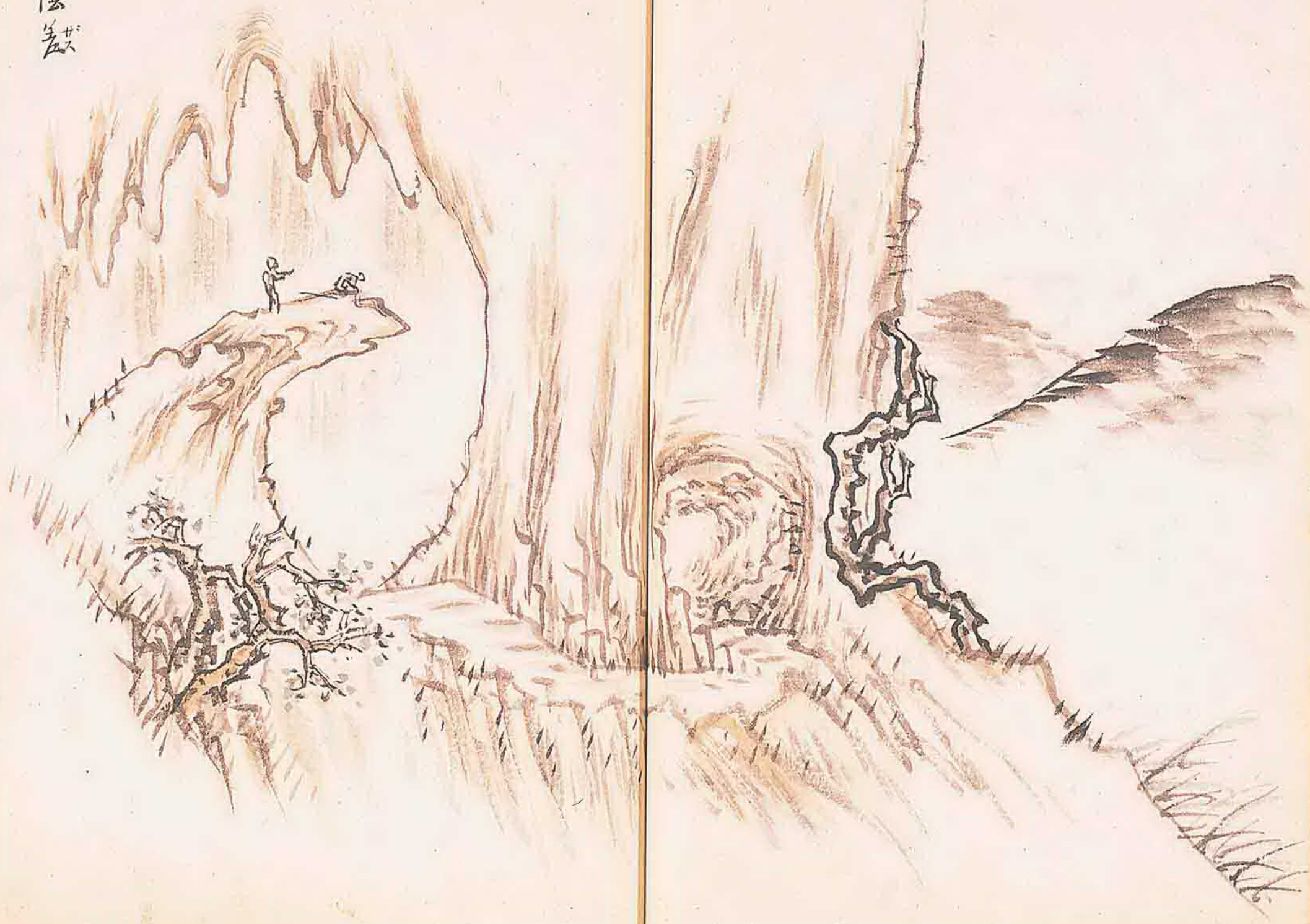
あなを過し年終り者ありて百日のひまを
ともしそむしおの終を木をたれーちかき
のいひあつゝゝそむちんゝまゝらゝあゝいへん
まゝゝいひあつゝゝ

山いゝたゝのゝいひあつゝゝいひあつゝゝ
いゝたゝのゝいひあつゝゝいひあつゝゝ
いゝたゝのゝいひあつゝゝいひあつゝゝ
いゝたゝのゝいひあつゝゝいひあつゝゝ
いゝたゝのゝいひあつゝゝいひあつゝゝ
いゝたゝのゝいひあつゝゝいひあつゝゝ
いゝたゝのゝいひあつゝゝいひあつゝゝ
いゝたゝのゝいひあつゝゝいひあつゝゝ
いゝたゝのゝいひあつゝゝいひあつゝゝ
いゝたゝのゝいひあつゝゝいひあつゝゝ

歳の中いゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝ
いゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝ
いゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝ
いゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝ
いゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝ
いゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝ
いゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝ
いゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝ
いゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝ
いゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝいゝちあゝ



日陰



小沙嶽

言茶山

武甲山
障子谷之下

金伏峠

山子

千手山

西神山

金昌羅江



高き山に雲をくぐりて見ゆれば
 二十三日の月夜に物つる
 心とけり 鉾形とつる
 城址とつる
 小川とつる
 あり

小川城址

高桑山

上雲寺
蘇生

柳生

トウ
フニ
サス
後
皆



城
谷
城
址

城
址

かくて若くは高きつらうとゆふ

二十日ほきこの宿をするまゝのまゝとてふ
のまじり入とけり人をけりふりつて日
多ぬ敷地もまのちかきものなり
けりもあつてまのちかきものなり
まのちかきものなり
まのちかきものなり

二十六日されつらうとゆふ
まのちかきものなり
まのちかきものなり
まのちかきものなり
まのちかきものなり

まのちかきものなり
まのちかきものなり
まのちかきものなり
まのちかきものなり
まのちかきものなり

まのちかきものなり
まのちかきものなり
まのちかきものなり
まのちかきものなり
まのちかきものなり

武甲山

影森

山子

小豆平

上ノ平

大嶽

小坂

スカサ

持山

川糸

中落

下カ

上節

下野

二子山

柳嶋

敷地

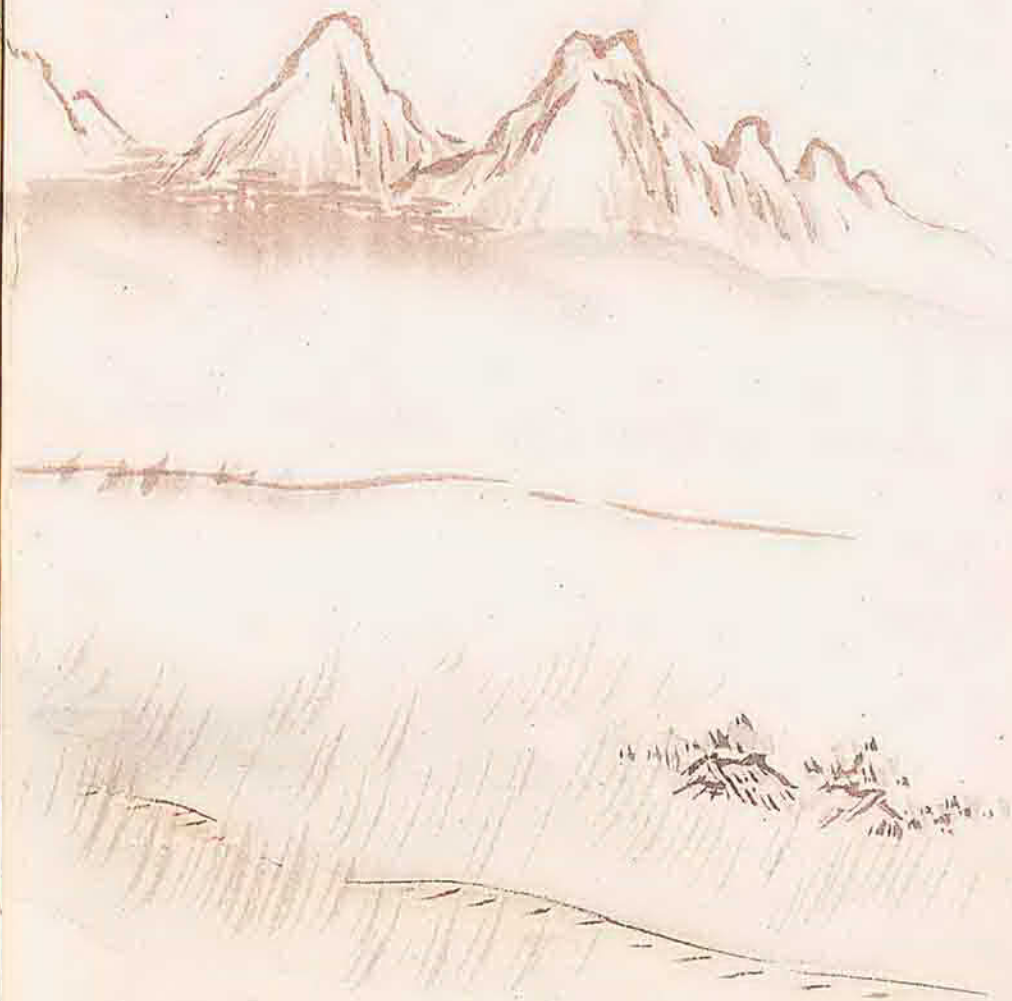


西神山



虛室藏飯上

又



ふくし年てかへりぬ

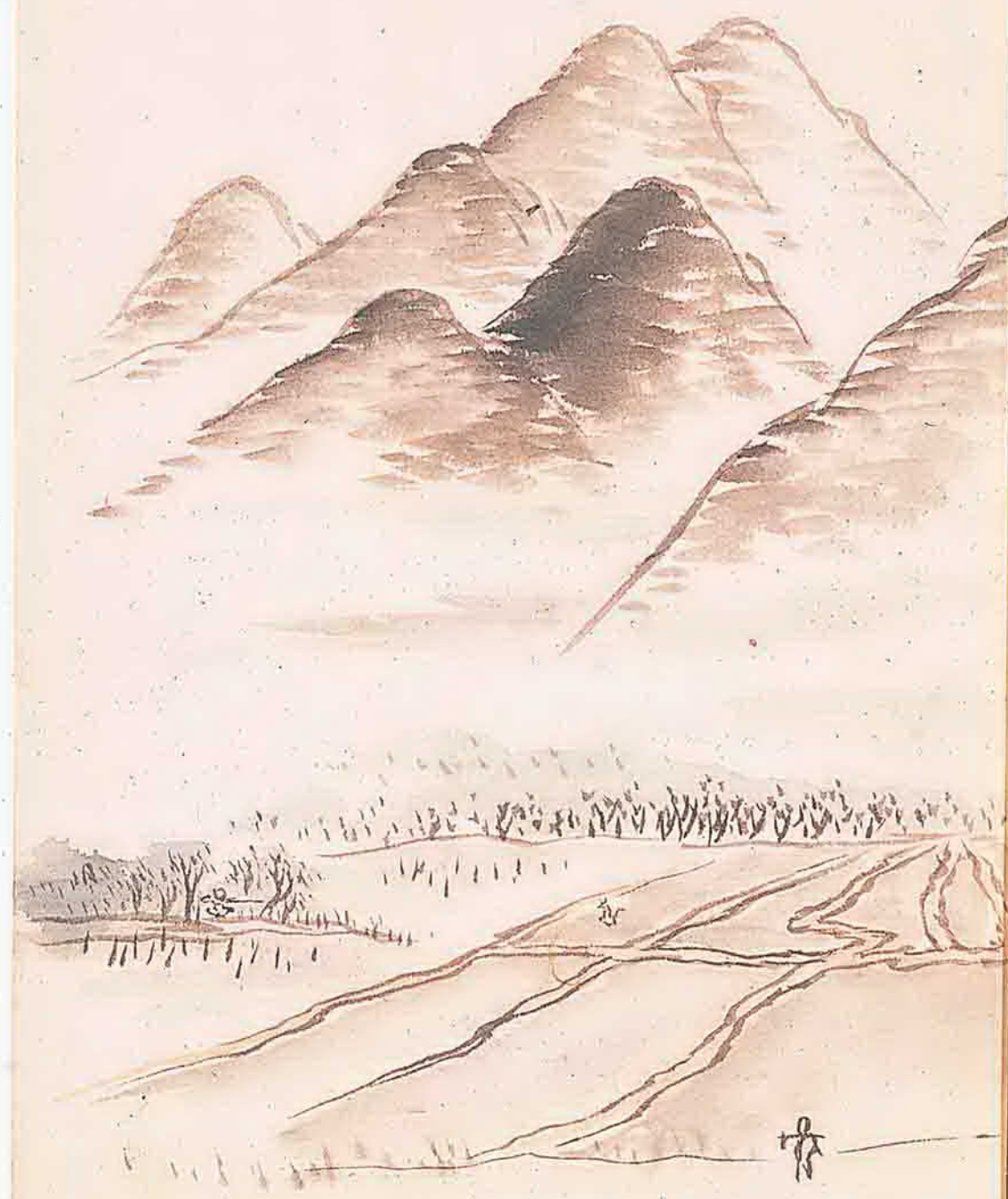
二十七日ふれあふしつーの山は田舎のふしに
 山は物のもももの馬のさつふふふふふふふふふふ
 あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 の山にふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ



神山

三篠山



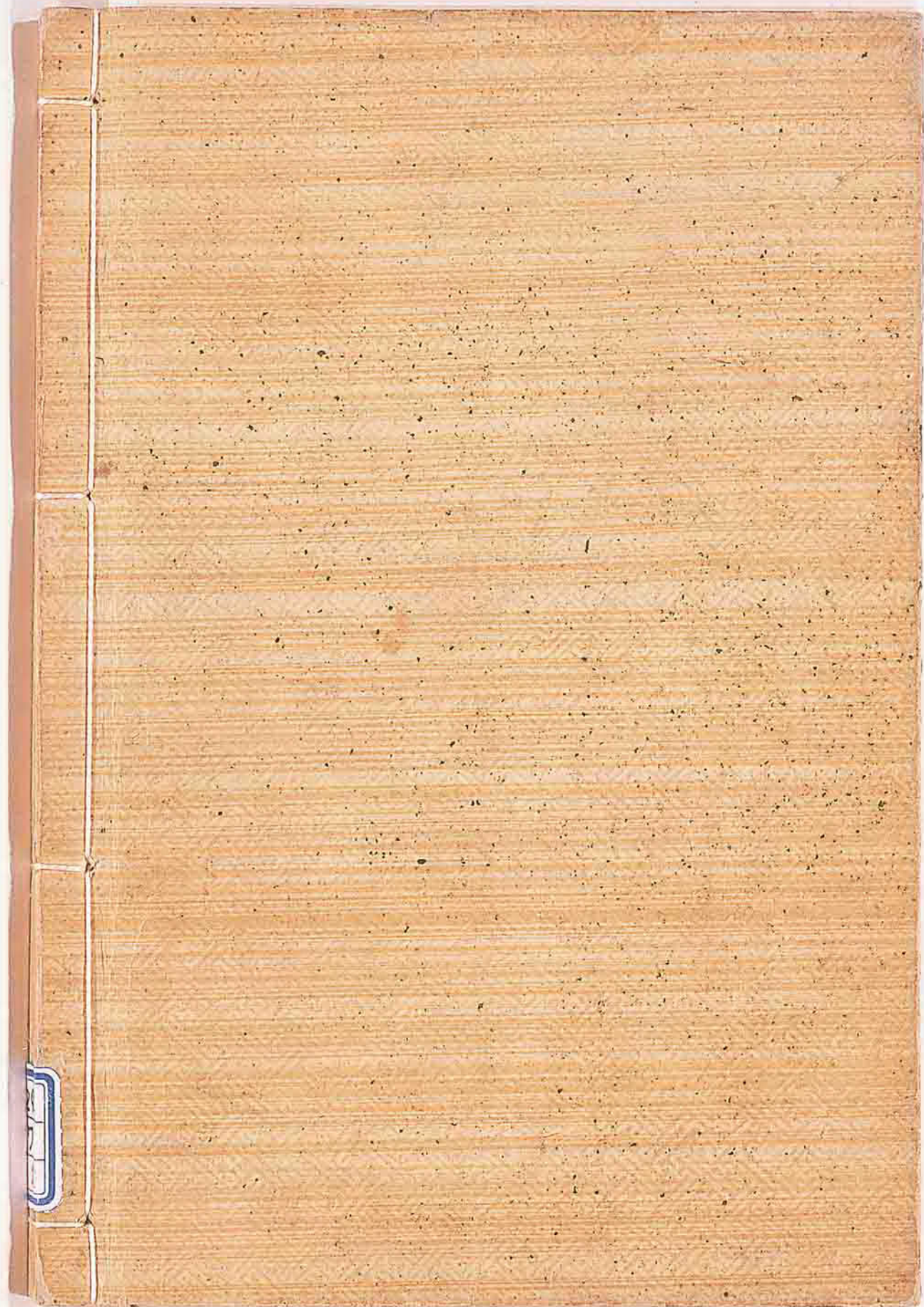


小御嶽



大サス





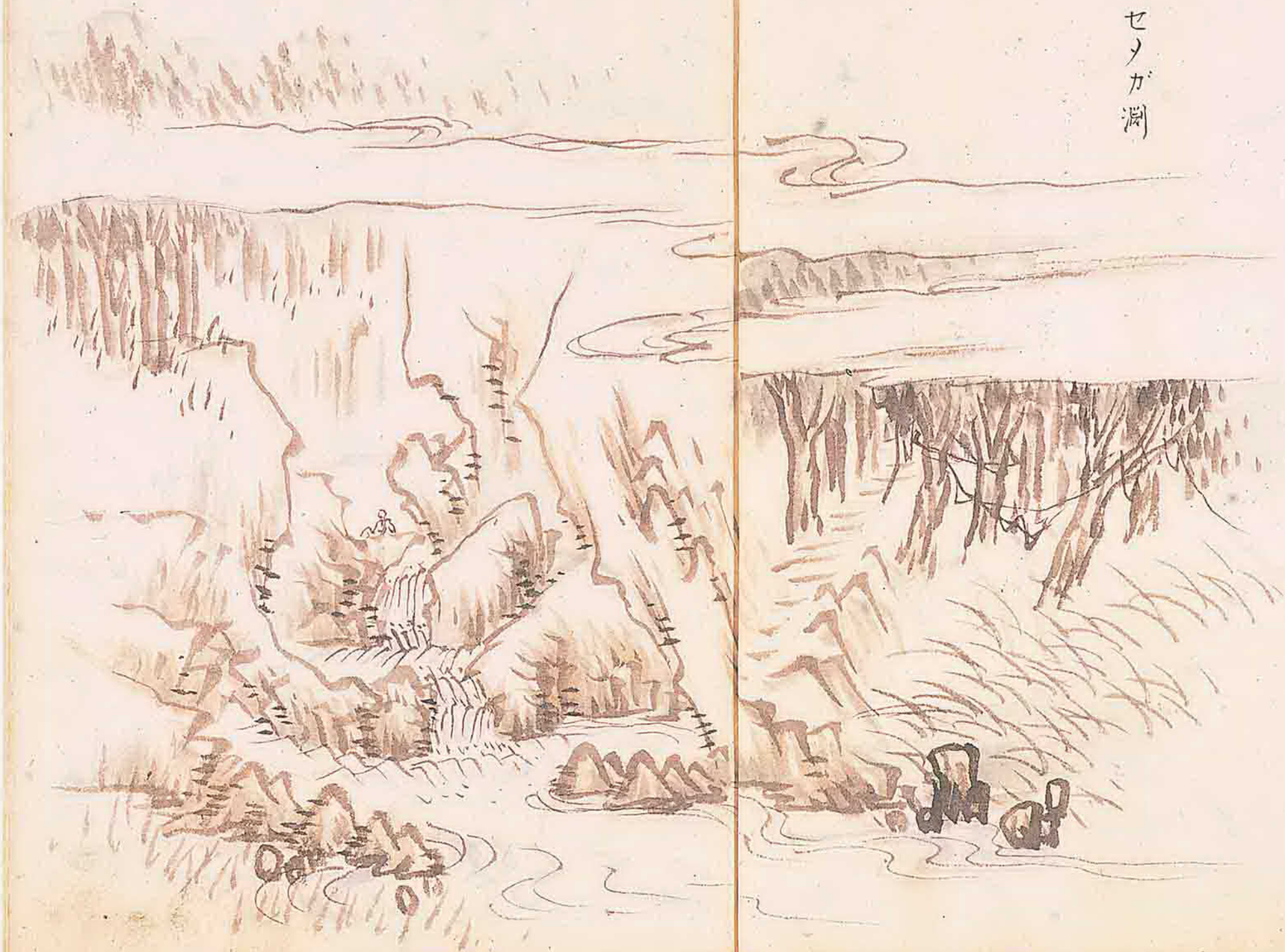
秩父日記

五止



のりくさのこゝろにふしのふしを
 みる

セノガ淵



葵之原

二子山

大田道



と御もてかたじけなく

ふ日はまにまにさきさきと日へあつていふはまに
けふもさきさきとさきさきと上へ平にさきさき
つらつらとさきさきとさきさきとさきさきとさきさき
ひくまにさきさきとさきさきとさきさきとさきさき

いふはまの秋のあつてさきさきとさきさきとさきさき
あつてさきさきとさきさきとさきさきとさきさき
大指さきさきと

六日さきさきと平村山さきさきとさきさきとさきさき
のちとさきさきとさきさきとさきさきとさきさき

ちとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきとさきさき

秋のさきさき

大越氏

秋のさきさきとさきさきとさきさきとさきさきとさきさき
のちとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきとさきさき
ちとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきとさきさき
いふはまのさきさきとさきさきとさきさきとさきさき
さきさきとさきさきとさきさきとさきさきとさきさき

さきさきとさきさきとさきさきとさきさきとさきさき
さきさきとさきさきとさきさきとさきさきとさきさき
さきさきとさきさきとさきさきとさきさきとさきさき

大野峠
 牛小
 大野峠



大野峠

牛小

大野峠



町へ大野とつた村とすれど平村の山と山口氏
 分るく宿はあつてついであり

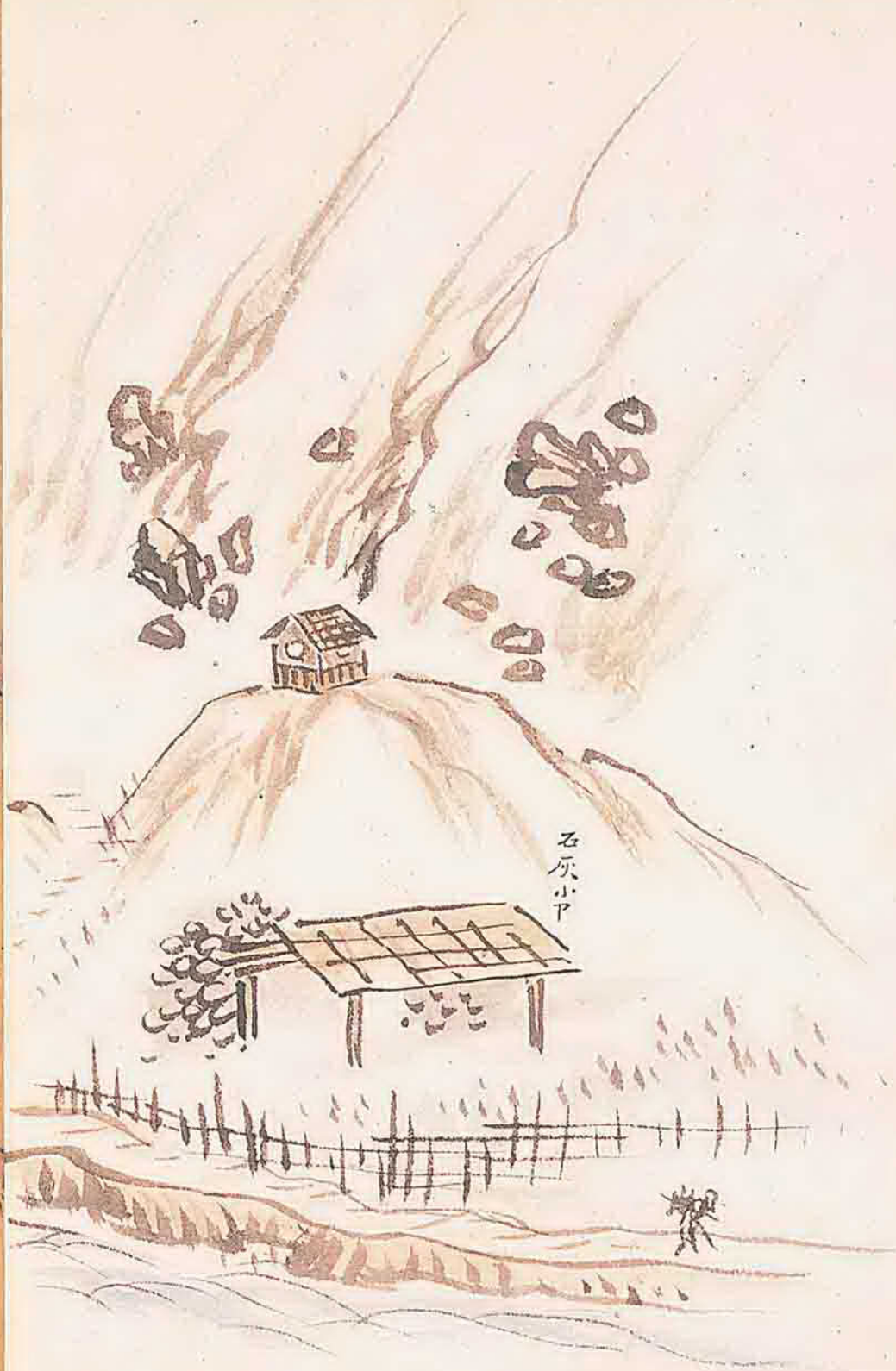
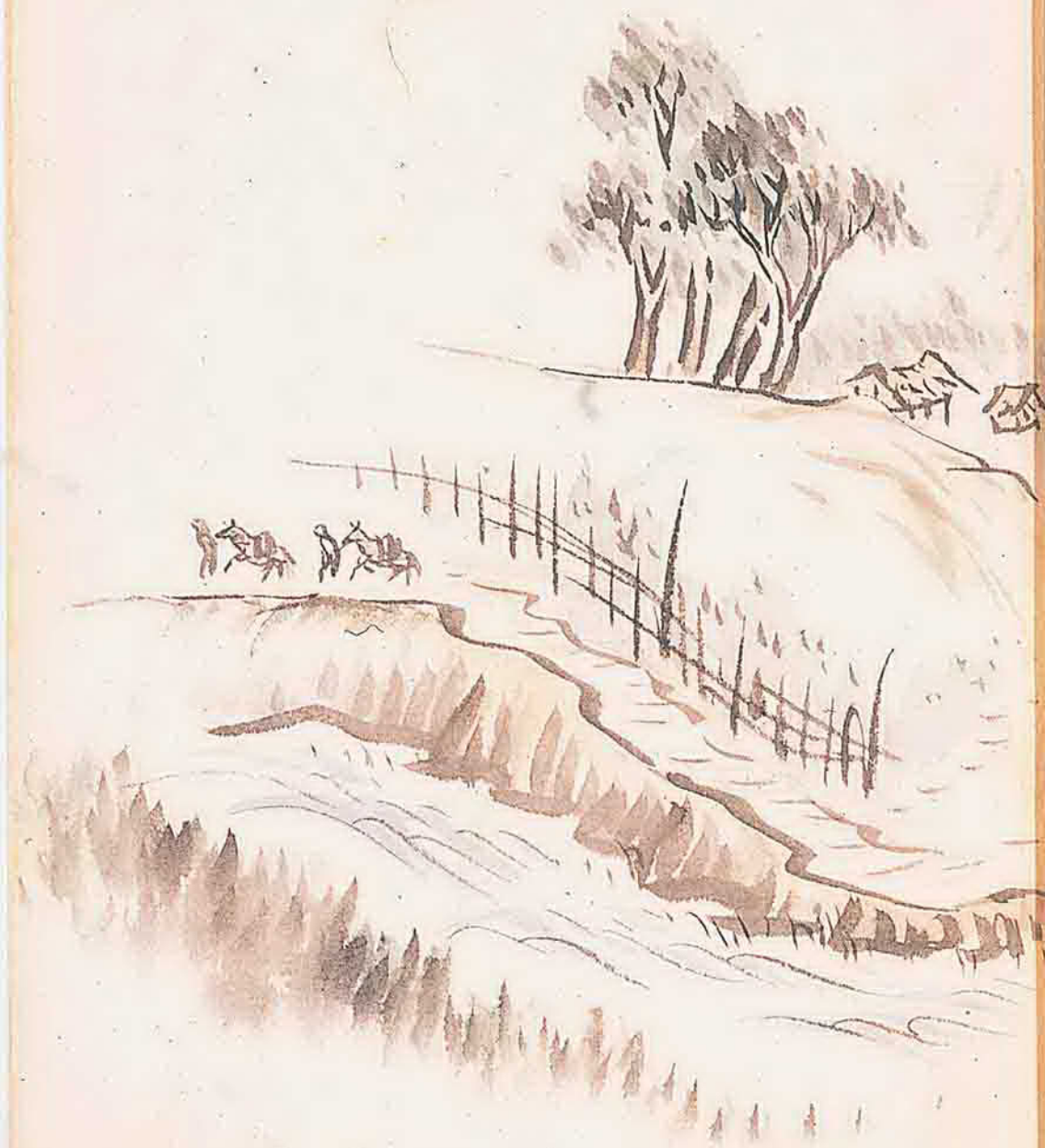
変り夕風

七日を渡山口氏よりしたのをきく鉢形の名を
 いふと山にたつたきく三つ道のはな古寺村を
 やめぬ石灰のやうな山のはなうさうき光
 ぶ井のよほつて小庵のやうな山とつたつ
 くせとた石ともの光をきくついでとつた火
 油のやうなつたつたつたの小庵のやうなつた

けつとつたつたつたつたつたつたつた

平村



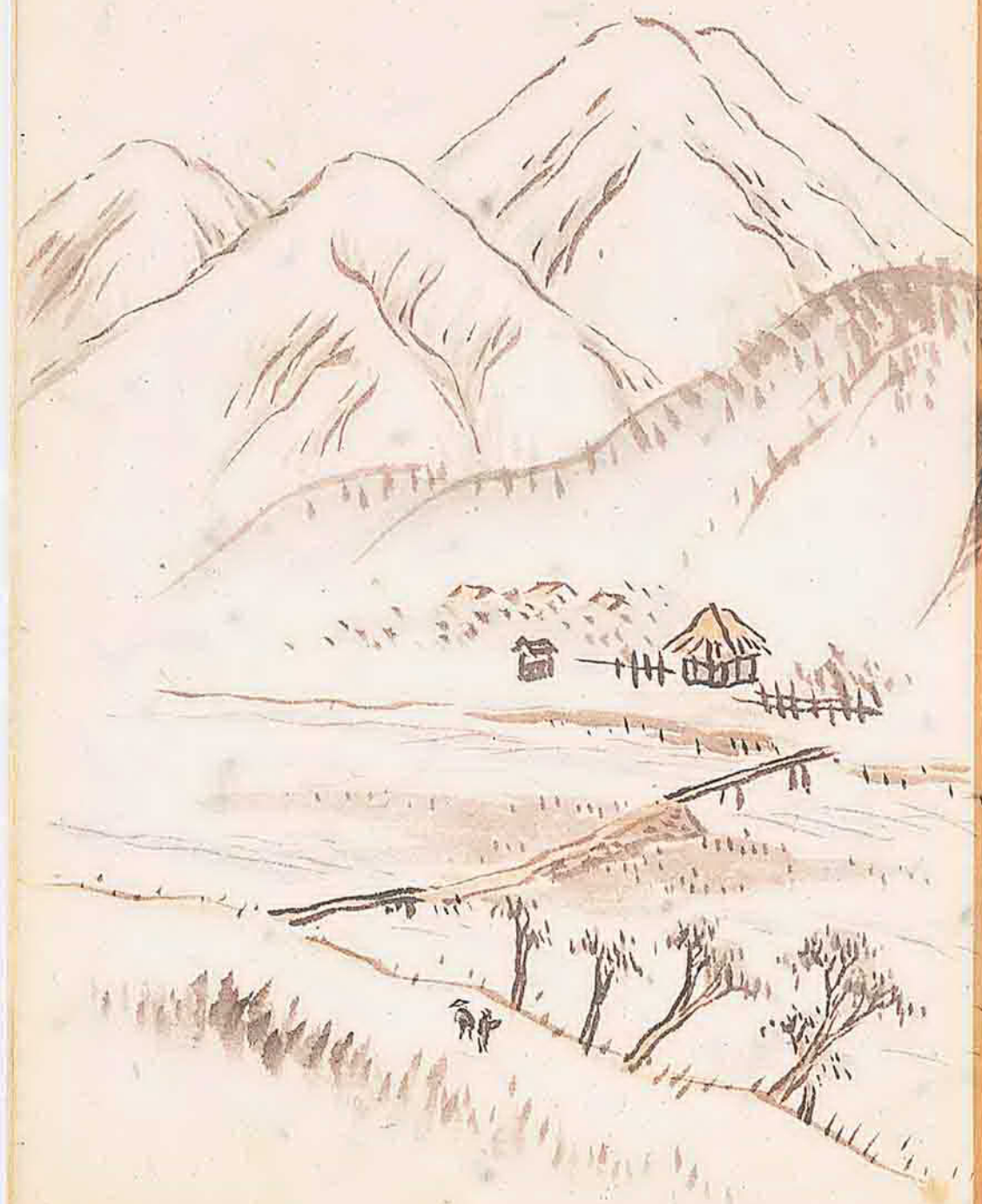


びつある家山よりて築けりとのやうに
 びつある一つのかねとて麻ねたりと云ふ
 里山おまのはれはあつたさうに
 腰戴し山より川へ下りてきつる山あり
 城墟とて矢岸とて山とて山あり
 山あり

矢岸

腰越村

笠山



かくて安戸の聖王の御影をすゝめ奉りて
 ありとて宗祇の御像をすゝめ聖護院道見の山に
 して侍りありとて其の御影をすゝめ奉りて
 してありとて其の御影をすゝめ奉りて
 してありとて其の御影をすゝめ奉りて

うは とうとわらわ
 ちうとわらわ

ねおよね

うねやま
 ね



安戸村野沢四郎公像

宗祇像

けり松山つゝおゆふのふもとに
 ありはまのふもとにありはま



カニノクサ

竹澤村

新くして錦ノ入と云ふ村々あり婆羅門宮と云ふ社
 ありては成教園防寺と云ふ入る所とてその名はあや
 さまの社のことほふと云ふなりその神祇をいふなり
 銭形のある所と云ふ山と云ふ所のありて人々ていふと
 ともなるなり新ふ立原村と云ふ所吉定寺と云ふ禅教の
 寺日本初氏の開基とて文禄二年と云ふつけり鍾
 4日下部忠清の吉定と云ふと云ふ人々ていふなり
 ともいふなり墓と云ふところありてありてありてあり
 あつて司と云ふ者なりと云ふなり神祇の城と云ふ人々いふ二
 ぼり土居と云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり

の社をたてゝそのまゝに祀りて從ふべきなり
 する所々細々とてまゝに祀る所あるに
 たりたりとてきつてその地の名に
 おもひ寄井の里の所なり田のとも
 夏山なり布の所なりとて祀る所
 としお新ふ所なりとて祀る所
 ありとての城なりとて上杉氏の臣
 邦房の所なり北条氏上杉氏
 ひくまの所なりとて祀る所なり
 乃て祀る所なりとて祀る所なり

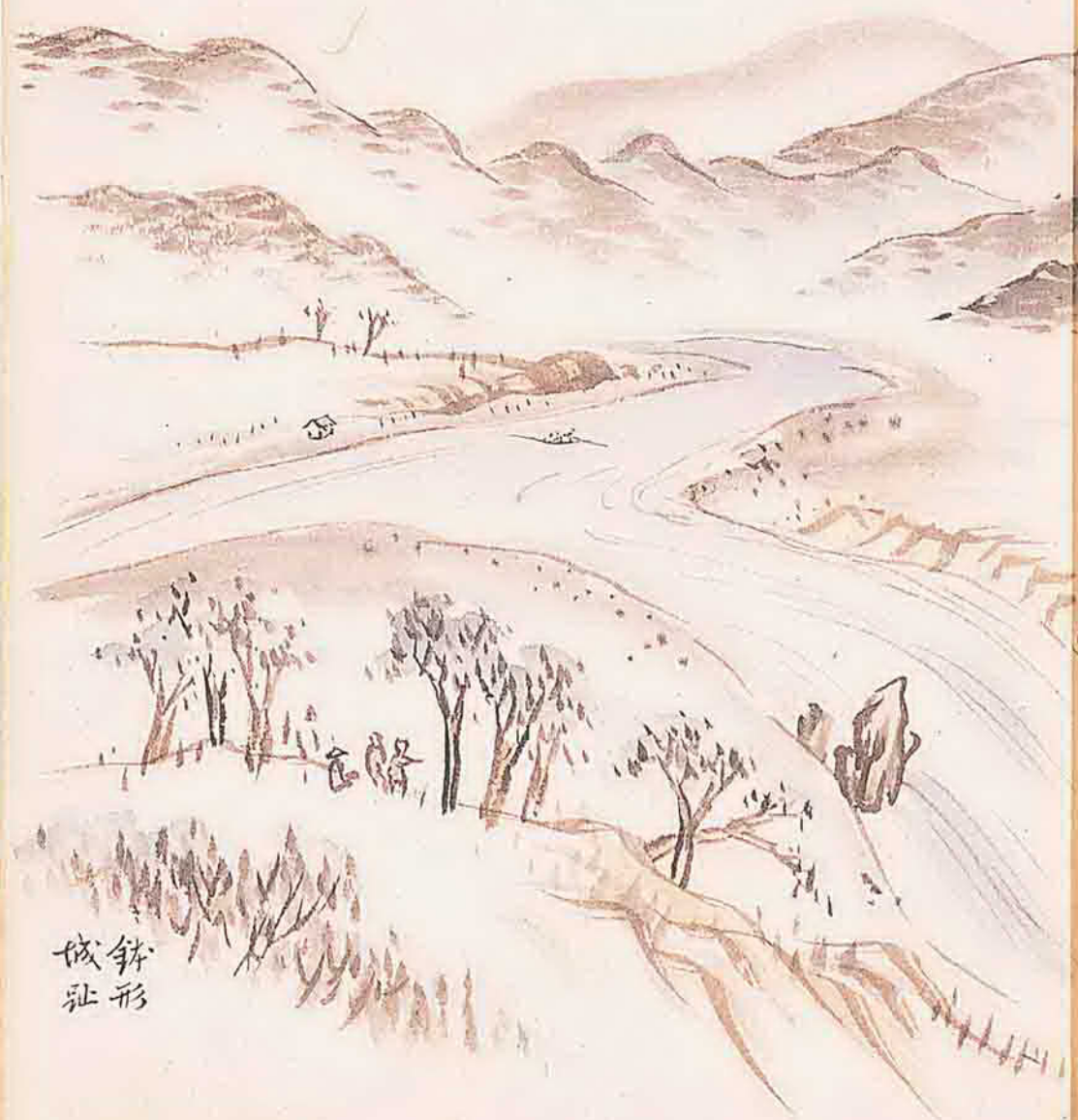
秩父新太郎は猶子とあるもののよもみあつて
てその方々は榛澤郡用土といふ所はいきなりと
周太郎新太郎の康邦とあるのをいふやうにふく
いふとたのしむたといふ人新太郎といふ人
たまたま酒のちと鴉毒はあつてたつ
その中にも酒のちと鴉毒はあつてたつ
安房守民邦といふ名のつとつとつとつとつ
いふつとつとつとつとつとつとつとつとつ
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつ

いふとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
いふとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
いふとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
いふとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
いふとつとつとつとつとつとつとつとつとつ

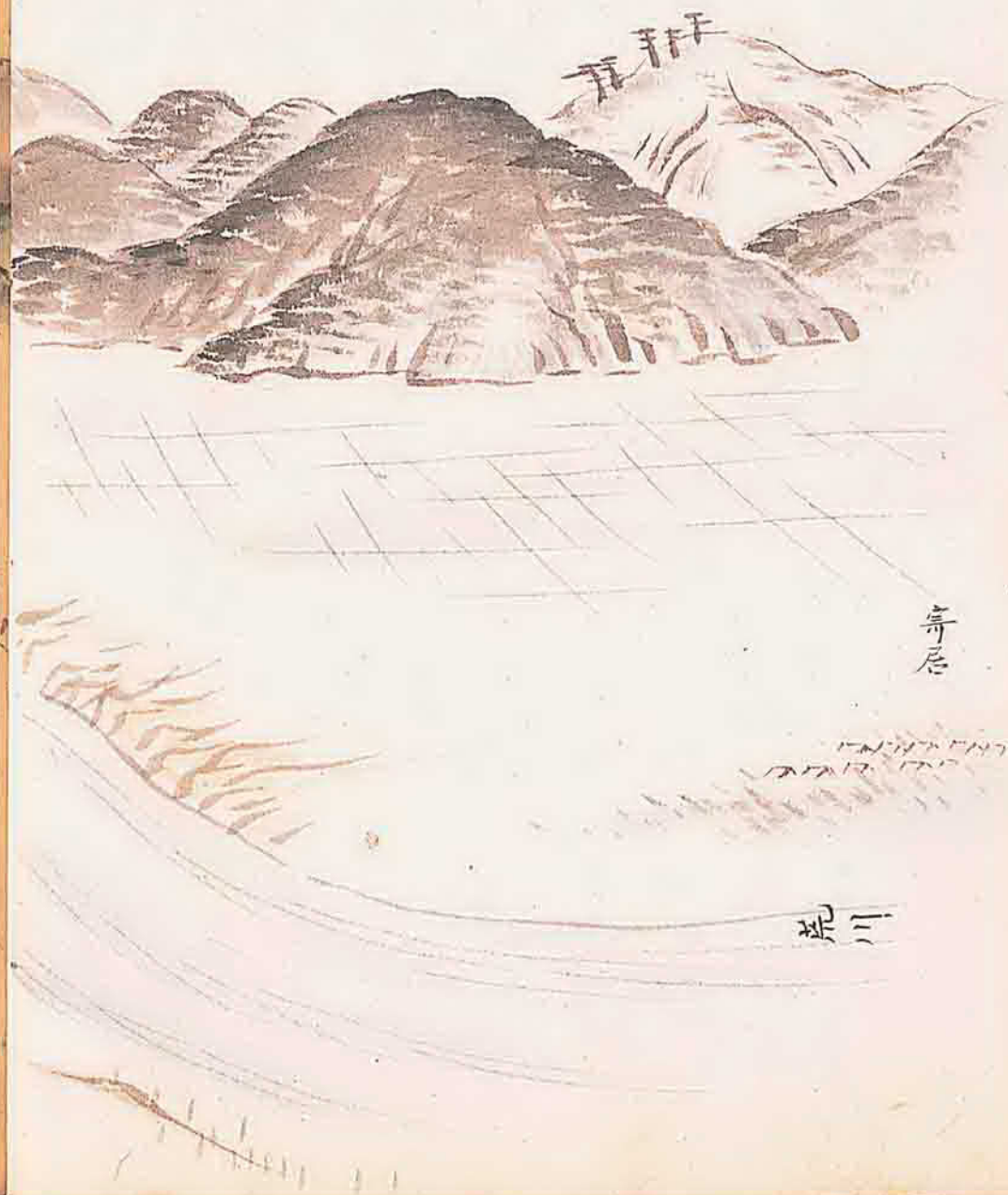
おのわたりとつとつとつとつとつとつとつ

まのつとつとつとつとつとつとつとつとつ

金伏峠



鉾形
城址

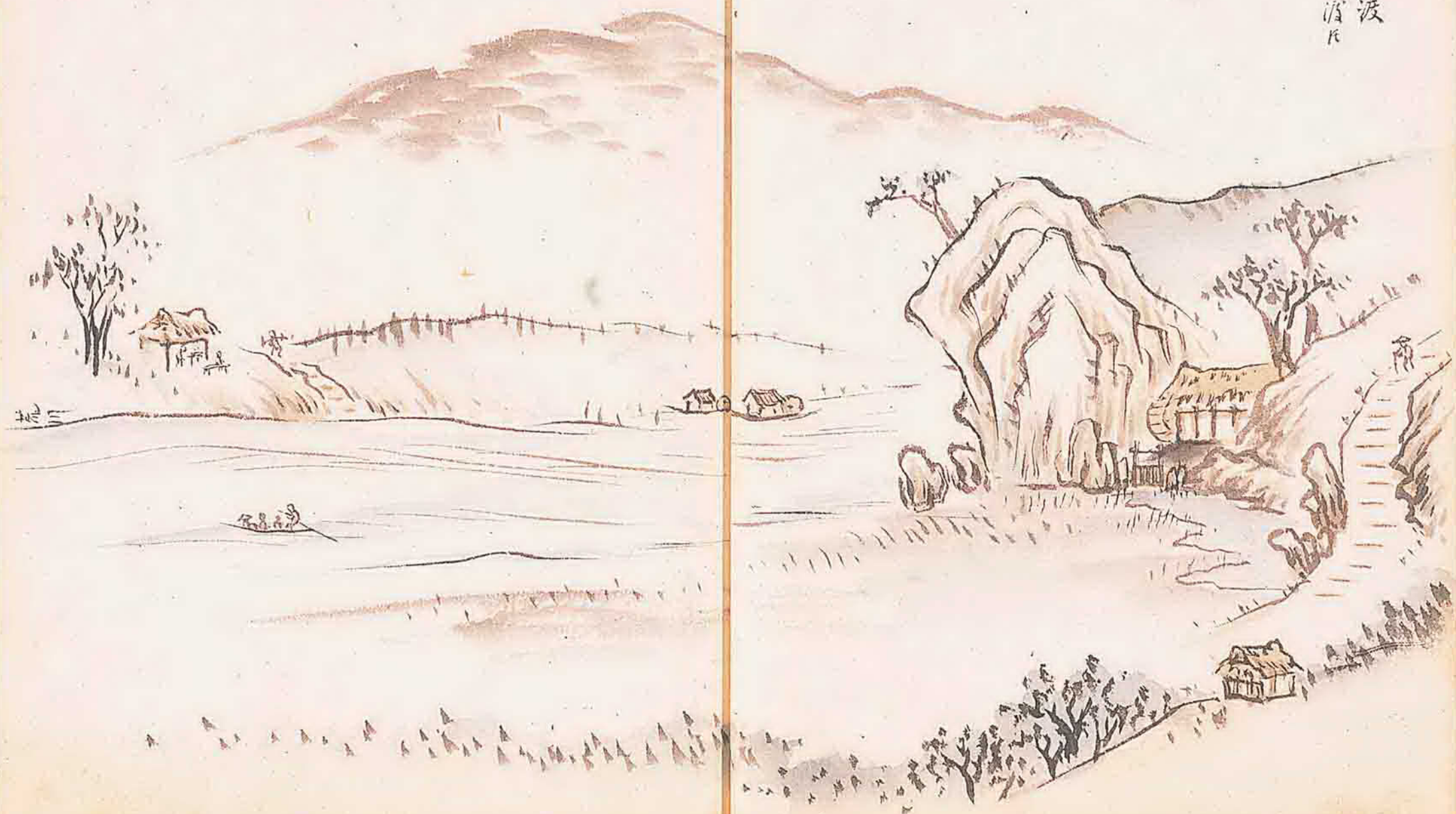


五平山

奇居

荒川

荒神渡
又トヒノ渡



かり神威のつとめをいふは荒川よりわ
 たり宇井お里に引てかきわすねのひききこに
 ちし毎のふ日五日ちるわはちこの里人あらは
 ちのた金とてかきわすねのひききこに
 てとひきわすねのひききこに
 かり神威のつとめをいふは荒川よりわ
 たり宇井お里に引てかきわすねのひききこに
 ちし毎のふ日五日ちるわはちこの里人あらは
 ちのた金とてかきわすねのひききこに
 てとひきわすねのひききこに

[illegible]

かみいり時とくゆりし山門ふハ藤田禪林と
以て鶴をけりやとて宝物ふりて大
徳いりしゆりしとてまたふすはらの
えいそとたふりのむしゆりし棒をいり
ゆるは火のむしゆりしゆりしゆりの
まへよりし一本生けしゆりしゆりし
りゆりし

雪舟筆

寒山拾得

二幅

夢のむしゆりしゆりしゆりしゆりし

徽宗皇帝筆 鷹

夢のむし

東坡筆

竹

墨

いりしゆりしゆりしゆりし

柳宗元筆

はみやの仙女まゐる仙女 二幅

雪舟筆

靈照女

めきんやとけんおとけい

牧溪筆

十三佛

北殿司筆

十六羅漢

えいしゆりしゆりしゆりし

雪信筆

観音

墨

風外筆

達摩

墨

ふしとほきよの人をもめぬいまふのゆゑに
又判事人へは唐物の香爐を〜そのり重
香合は紅葉が多のきふふは竹4席をゆり
氏邦のわけゝ大福の前につまよき〜む
ひ〜き大刀をさ〜刀を〜後通へる皆さへ
〜〜〜ふてふれぬものたれ〜んわす〜
大福の前のおもひ〜とふすすのち〜きけり〜
一〜あせやそ氏政より氏邦へ〜せ〜ふ
こ〜氏邦よりふるふ〜お〜早〜とゆ〜
〜あるものも〜ゆ〜き〜ふ〜

ふため〜〜〜書〜〜〜
〜又書もよな筆の〜ふ〜
は〜ふたれ〜〜
もの〜〜金きぬな〜又感付
〜〜〜のち〜と〜のふ〜
〜〜〜のふ

十日、後を状、枝を河を
早達、能く交、之、中、故、之
後、控、取、臨、之、方、多、之、及
助、之、初、切、之、日、を、先、決、立
後、名、集、津、之、上、万、之、二、お

後、名、集、津、之、上、万、之、二、お

三月十六日、氏政判

新、金、石、版

昨日
無凡
殊
妙
度
禪
柱
之
妙
此
上
之
感
之
妙
如
名
年
行
安
之
妙
如
契
村
一
新
送
之
妙
不
悔

九
り
あ
る
書

文

物亦一松茸

結一尺中銘

今小從音抄

之此之或悟

少結

九一古出厚

丁亥
凡

今度松多
多升六分
新相熟延袖
走廻石車个
向後成孫个相

松多也仍糾

寅
七月十日三山

虎印

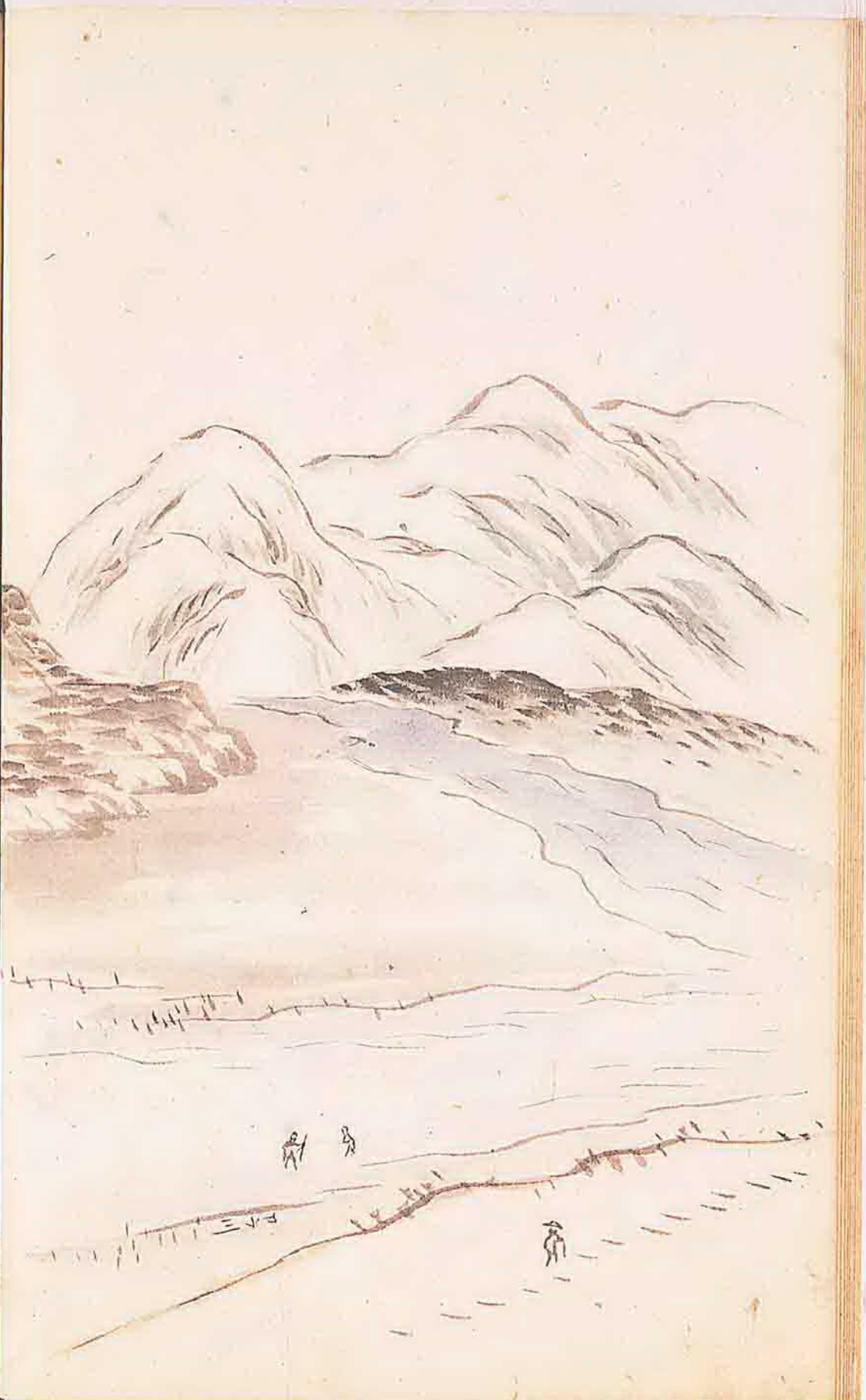
清久其子

江戸あんちりむすの道へ本邦房へ移るなり
 氏邦とわかれぬを惜みて四つをそのうちまよ
 そねそめしきものもあやうく大まじき事ゆゑ
 あきゆひ〜とき〜うらなひのふれ見き
 あり山より降りたせも遊ぬ山口氏のよこ〜
 うさげんとして大後とてめいいてむてうのそぬり
 とゆる川のおおらんそ〜はなとけふあらたき
 歳の一人し年ウキ松もいちりのことと聖天
 社といおうこの山麓川中へそめ〜い〜と
 るあぢのふみ〜う〜ふちのた〜川渡〜





象力鼻



ちて寄居山の麓より山口氏のあけしけり家よ
 ころよりいふけり入酒をすめりそこのあけり
 ちてこのあけりしけりしこの書とるしけりしけり
 しけりしけりしけりし大なるあけりしけりし
 富田。甘糟シホリシ。四方田。用土。人見。岡部。五十名。立原。
 高見。ちてまゝ荒川のつり男。食郡。畠山村
 ち重忠は八幡山といふおちりしけりしけりし
 新山。砂山の池ありしけりしけりしけりし
 おちりしけりし道のいふけりしけりしけりし
 つりしけりしけりしけりしけりしけりしけりし

ちてあけりしけりしけりしけりしけりしけりし
 舟といひしけりしけりしけりしけりし

鉾形城址之四
 釜ヶ淵





山家
聖天

开



大宮道

大塚村穴八幡



木竹と道にふきこみし雲と如く都幾川
にそそぐ水とあけらは赤のけしきとつき山と
霞のまは月のおとろけおほふと

故我山也其子仲季也
 今及七十而志不改

學子集

山口氏山歸りつゝふりひめの所すゝと4ややう4えん
十日雨そやは松岡氏もきてあうけをくの
そのつゝつゝいふたきとくせり

十一日 西ちんちん 桃を村まきとわたりいしとを
のりまきわたりしとを

十二日 雨 秋分

里中山麦の町はくハ田はくハ
 里中山麦の町はくハ田はくハ

川入りし麦のふりて焚きまじ。桐ももれま月夜の空
夕れちりてやよりふらふらと花本村坂本
春庵くくくゆくくくふくくくくくくくくくく
二股尾村の養生よりひきまきくくく雨衣をひき
へくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

宿りりー紙の板の標の夢今よりなすぬ旅の中只
十三日ちぢふとふいふ立止つてやせよのうへと
道ふりてめて坂戸より松行くとみづの原と

大井の里より南畑村まで
 江戸へ入るのとおりなり

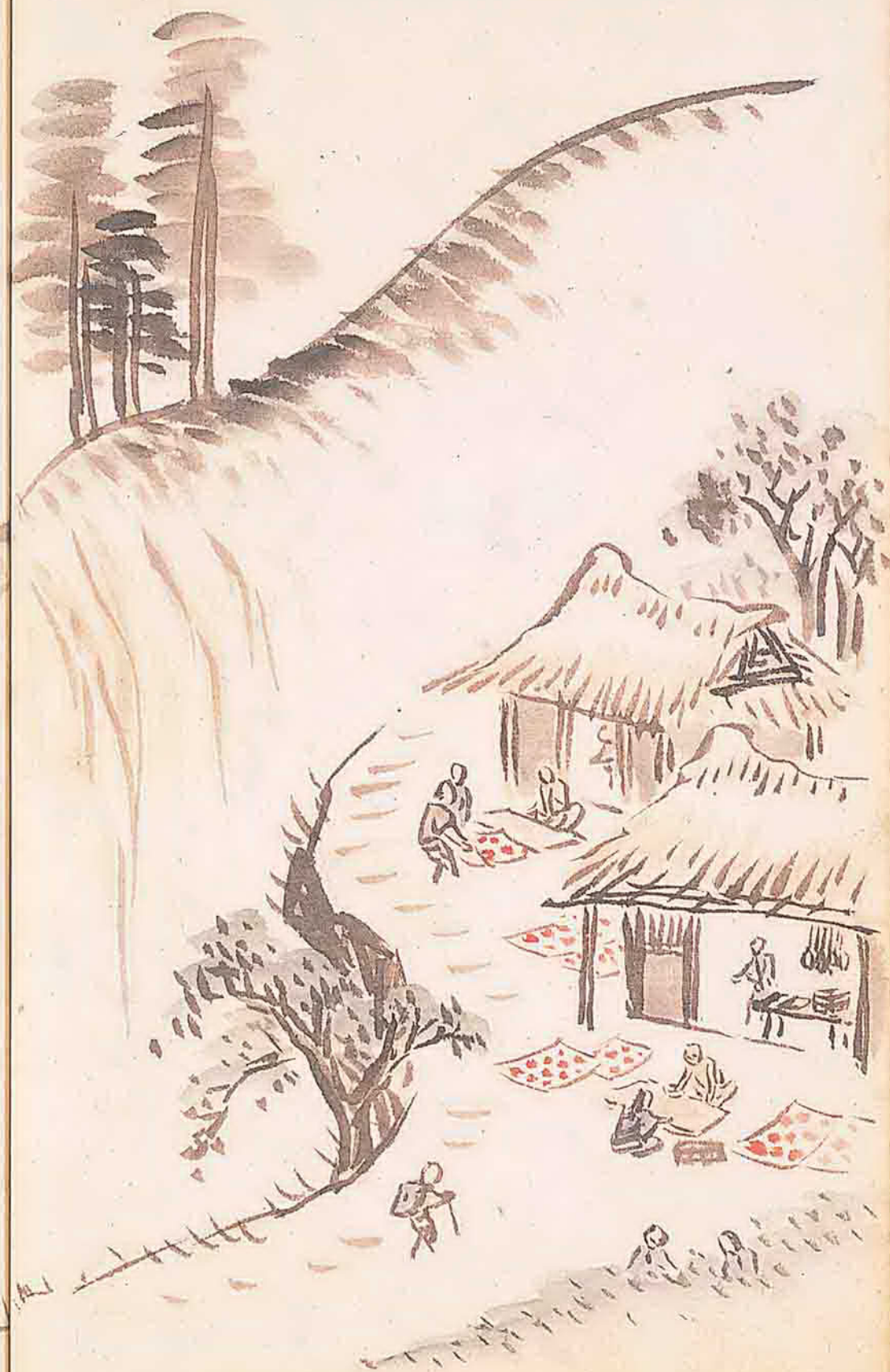
十四日 せん 鑑村 長勝院と云ふに 田園 雜記より
 せん 大石 信濃守の館の跡ありと 十五院と
 又同様に 一は道の程 又 寺に しかばねと云ふと
 以て ちの 名のと云ふと けふと云ふと たるゆゑ 雀岡
 と云ふ 村をすくはし 女も 畑と作と せうと云ふと

の花はつと何ぞく何をもいふぬきハ舞止の世なり
空しくもやするあつてまをりしとくはよき心こみ
そわたりてけいてえやせぬ

あつゝ末つひたのみよりも年々と好のむなりと
とれとては



新平郡 官河村



[illegible]

あれをすくすくはりのもねたれいあつ大和田村
の光明寺を元おにねいあまのまひなりふこのり
うまはあむなりやれいつ人なほよと疑うた
かたのそとい堂のまへの楼の櫓の本なる臺
ありーのことゆふがゆふんとくわあひうやん
かいてちやも堂たふしーのいニ堂よりそこ
はりーにほたる本像位牌をのちりさうへんを
けりてさは鍾いのありその津山武州新
倉郡館江元禄五年迄のこきりさうへん
もののさは館江とみいしは後よきさうへん

中とて是のまに破るる屏風は
 らぬ心の中秘密を詮文と和
 解しつゝや
 る事をもわづの形よく書ふ
 めき書さす水戸
 こねだすもくわとは紙とも
 へとめぬさうのり
 つゝさふきりやはこころ
 はんちんしやね川
 と所なれて田といえく末
 いわぬ山はらふ
 こころをわたり一因兼興
 数言樓遠近
 江山分我州落雁叫霜風
 颯々白沙翠竹斜陽幽
 ろろろこの夕霞りと之由

心齋

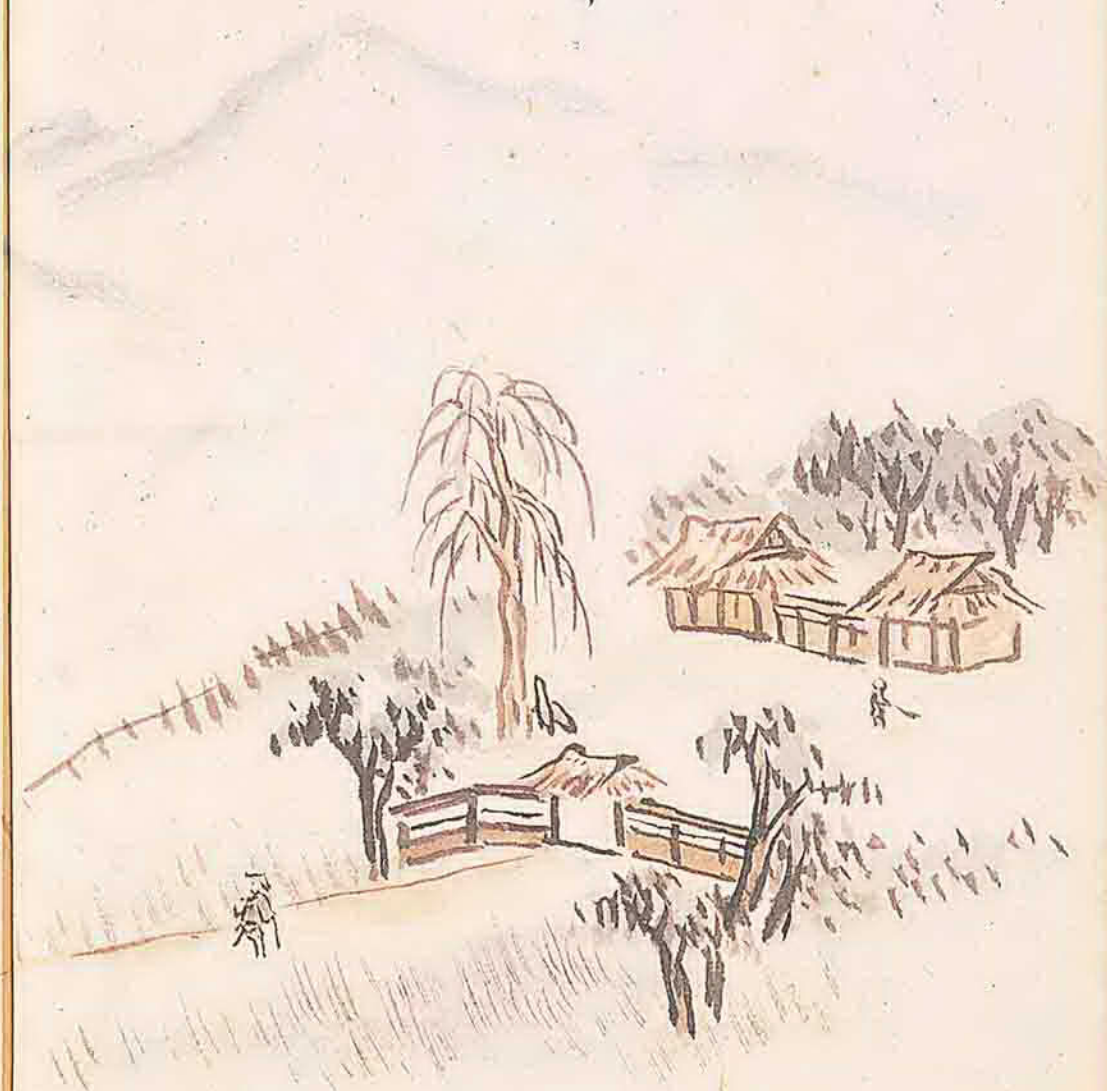
元弘三年
閏七月

梵字二行

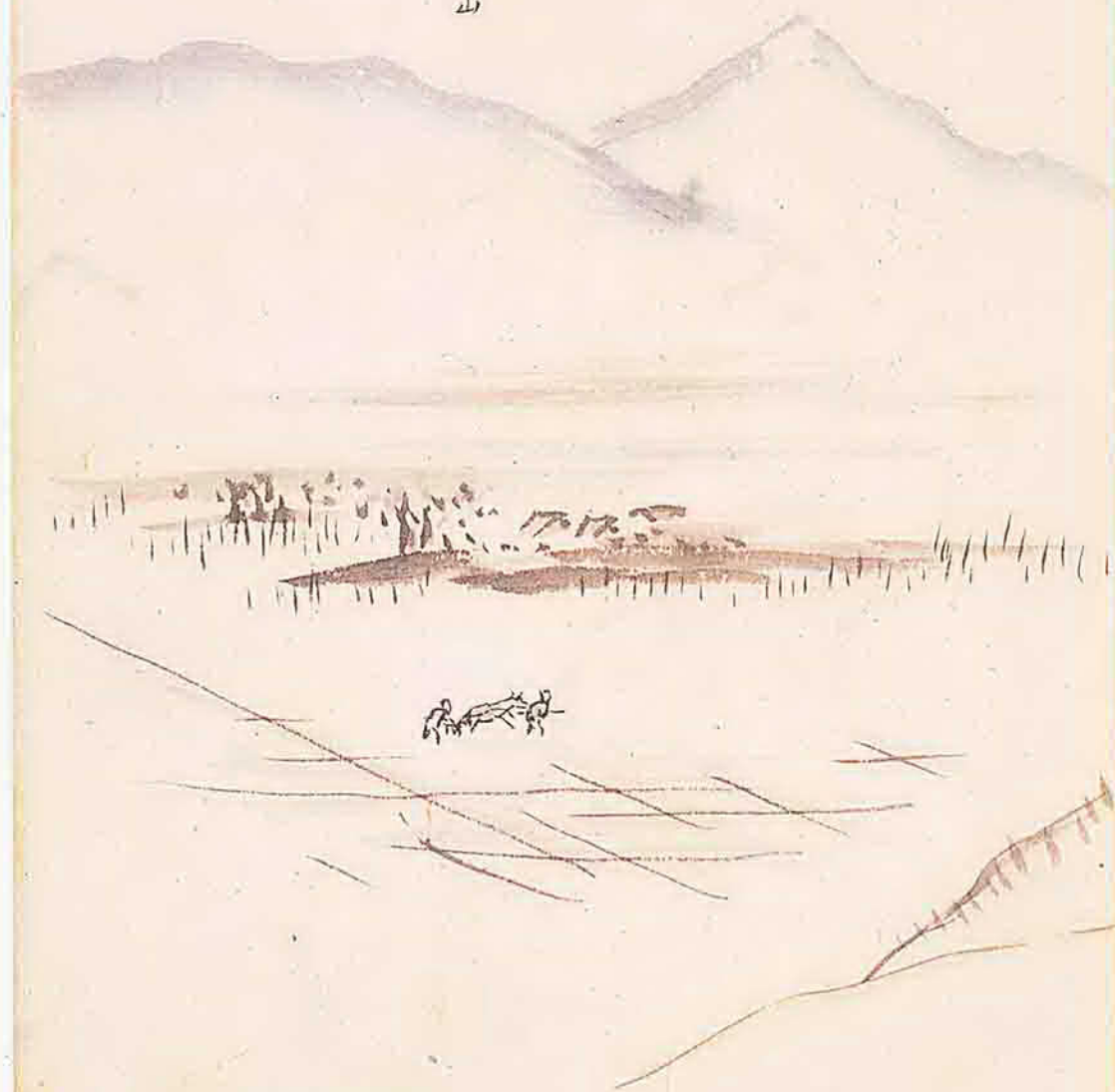
梵字二行

新堂村
長勝院

チン山



甲州ノ山



おれも又村より入るはとわるといふ入
り白子の里へとおのりへ新築といふ村をまき大路に
つぎぬえ江戸より川越へいりて高田より入るは
つぎぬえ江戸より川越へいりて高田より入るは
の外より入るはとわるといふ入るはとわるといふ
あきおれとわるといふ入るはとわるといふ
やもあきおれとわるといふ入るはとわるといふ
うとわるといふ入るはとわるといふ
あきおれとわるといふ入るはとわるといふ
いふ入るはとわるといふ入るはとわるといふ

やもあきおれとわるといふ入るはとわるといふ
つぎぬえ江戸より川越へいりて高田より入るは
おれとわるといふ入るはとわるといふ
いふ入るはとわるといふ入るはとわるといふ
いふ入るはとわるといふ入るはとわるといふ

37.6.14

